

二一八 十二月三十一日 在中国日置公使ヨリ

石井外務大臣宛(電報)

支那不穏ノ形勢ニ付テハ最初ヨリ英國外務當局トノ間ニ我情報ノ出處等ニ付差支ナキ範囲ニ於テ彼我情報ノ交換ヲ行ヒ居ル次第ナルカ十二月二十九日「グレー」氏ト會見ノ機

ヲ以テ尚ホ貴電第三九五号仏國側ノ情報ヲ内話セルニ「グレー」氏ハ「ジヨルダン」公使ノ近電ニ依レハ動亂ハ差向キ雲南以外ニ拡ガルノ徵ナシトノ事ナルガ果シテ仏國側情報ノ如ク他ノ西南各省ニモ波及スルモノトセハ事態頗ル重大ト云ハサルヘカラス就テハ往電第六二二号「クルー」卿ヨリ本使ニ談話ノ件ニ付テモ此際ハ帝政布告モ又承認問題モ亦其儘トシ暫ク形勢觀望ノ外ナカルヘキニ付支那側ヨリ督促ナキ限り「ジヨルダン」公使ヲシテ本問題ハ差向キ其儘ニ差置カシムル方然ルヘキカト考ヘ居ル旨語ラレタリ在米仏伊ヘ転電

註 外務大臣十二月二十九日發第三九五号ハ日置公使ガ在中国

仏國公使ヨリ得タル情報ヲ伝ヘタルモノニシテ「(前略)袁

世凱反対ノ革命ハ十二月二十三日若クハ一月一日ヲ以テ雲

南四川貴州広西広東浙江湖南ニ起ルヘキガ如シ」トセリ

井上大使來電第六二三号ハ十三月三十一日發前掲三文書ナリ

及二月初旬帝制實行ニ尽力アリタキ旨曹外交

次長ヨリ申出ノ件

第七五五号

往電第七四一号ニ關シ十二月三十一日曹汝霖陸總長ノ命ニ依リ本使ヲ來訪シ特派大使ニハ現農商總周自齊ヲ任命スルコトニ決定シ隨員ハ未タ定マラサルモ一行ハ一月二十日頃迄ニ東京へ到着スル様當地ヲ出發セシムヘキ旨ヲ申出テ右ノ次第ハ何レ公文ニテ及照会ヘキモ不取敢口頭ニテ内報シ置ク旨ヲ申添ヘタリ次ニ曹ハ帝制ノ実行ハ是非トモ二月初旬ニ決行シタキ支那側ノ希望ニ付帝國政府ニ於テ成ルヘク右ニ同意アル様本使ニ於テ尽力アリタキ旨ヲ繰返シ申述ヘタリ右ハ前電ト同様ノ趣旨ナルモ特ニ取次カレタキ旨ノ希望ニ付重ネテ申進ス

附 各地ノ反袁動亂狀況

二一九 十一月十一日 在上海有吉總領事ヨリ

石井外務大臣宛(電報)

上海鎮守使鄭汝成暗殺ニ關シ報告ノ件
第一三三号
公使ヘ転電済ミ
昨十日午前十一時鎮守使鄭將軍自動車ニテ御大典祝賀ニ來ル途中當館附近ノ「ガーデン、ブリッジ」ヲ越エタル処ニテ四名ノ兇徒ニ襲ハレ爆裂弾ヲ投セラレタルモ中ラス次テ短銃ニテ乱射セラレ即死シ隨行ノ憲兵隊長モ重傷ヲ受ケ後チ即死セリ通リノ阿部洋行員細山英一(?)爆弾ノ破片ニテ負傷約四週間ニテ全治ノ筈兇徒武名ハ捕縛セラレ会審衙門ノ審理ニ附セラレタリ委細後報

一一〇 十一月十一日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

馮國璋、革命党等ノ反袁運動ノ情報ノ件

第一三四号
公使ヘ転電済ミ

馮國璋ノ態度ニ付テハ在支那臨時代理公使ヨリ外務大臣宛電報第六二〇号ノ如ク当地ニ於テモ從来種々臆説アレトモ貴電第一〇一号密電公表第一二八号密電露出ハ尠クトモ益々馮若クハ其部内ノ所為タルハ事實ニシテ北京政府側モ益々馮

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二一〇

二〇三

一 袁世凱帝制計画ニ闕スル件 附 二二一

二〇四

煊モ追テ同方面ニ向フヘク孫逸仙ヨリハ陸榮廷ニ委任状ヲ
発送シ袁帝即位ヲ待チツツアリトシ形勢可ナレバ段祺瑞ト
ノ関係ヨリ湖南ノ湯將軍山東ノ斬將軍部下ト聯絡ヲ保チ他

方衷心帝制ヲ喜ハサル關係ヨリ江蘇ノ一部浙江ノ朱將軍山
西ノ間將軍等モ呼応スヘキ望ナキニアラサルモ既ニ袁派ハ
是等方面ニハ買収脅迫等ノ手段ヲ講シ居ルヲ以テ成功ニ至
ル迄ハ余リ当テニナラサルモノト觀測シ湖北廣東方面ノ運
動モ官憲側トハ直接ニ聯絡ヲ得居ラストセリ尚孫逸仙ヨリ
ハ若干ノ金額ヲ四川湖南廣東雲南山東等ニ配付セルモノノ
如ク右ハ米國南洋等ヨリ集メタルモノノ由ナリ当地附近ハ
益警戒ヲ嚴ニシ軍隊檢閱等ヲ行ヒ居リ仏國居留地ニテハ去
ル十一月六日夏之獻暗殺事件アリ同人ハ李烈鈞ノ師トシテ
嘗テ江西陸軍學堂總弁タリシコトアリ今回モ江西都督ニ推
サレタリトノ説アルニ見テ袁派ノ所為ナラント認メラル統
テ鄭鎮守使暗殺アリ居留地内外人心一般ニ不安ノ氣味アル
モ目下表面格別異状ヲ認メス尚許崇智鉢永建熊斌ハ過般新
嘉坡ニ向ヘリ委細後電

二二一 十一月十二日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

ノ支那武官ノ鄭タルヲ確メ直チニ爆裂弾ヲ自動車ニ投セン
トシタルモ斯クテハ雜沓セル街上ニテ(當時我總領事館來
訪ノ客及対岸ニテ花火打上ケノ為メ見物ノ群衆多ク自動車
モ進退自由ナラサル位ナリシ)關係ナキ内外人ニ危害ヲ与
ヘンコトヲ恐レ先ツ爆裂弾ヲ自動車ノ後半ニ投シ爆声ニヨ
リ群衆ヲ遠サケ次テ自動車ニ上リ短銃ヲ發射シ六発ノ後拿
捕セラレタルモノナリシ本件ハ全然我等二人ノ所為ニテ
他ニ教唆者又ハ連累者ナク又他意アルニアラスト述ヘタリ
他ノ一人ハ Oomessen (廿四) 山東人ニシテ奉天ニ於テ雜
貨商ヲ當ミ王ト懇意トナリ今回袁帝制問題ノ起レルヨリ王
ト同行南京ヲ經テ上海ニ來タリ鄭ノ暗殺ヲ實行セルモノニ
シテ自分ノ意思行動ハ王ト同様ニテ教唆者等モ全ク之レ無
シト供述セリ而シテ支那政府側弁護士 mussoo ハ証拠既ニ
明白ナル以上速ニ支那官憲ニ引キ渡シ处分アリタシトシ居
留地代表 Niumber 亦之レニ異議ナシト申立テ邦人細山ハ
会々現場ニ居合セ爆弾ノ破片右肩ニ当リ負傷シタルモノナ
ルコト明白トナリタルニ付西田会審官モ引渡ニ同意シ引渡
ニ決定ヲ見タリ

公使ヘ電済ミ
第一三五号

上海会審衙門ニ於ケル鄭鎮守使暗殺犯人ノ審
理及其中國官憲ヘノ引渡決定ニ付報告ノ件

鄭鎮守使暗殺事件ハ昨十一日午前会審衙門ニ提起セラレタ
ニ會官及ヒ當番米国会審官一應取調ノ上特別事件トシテ更
ニ審理スルコトナリタル處本件ニハ本邦人細山ノ被害
事件ヲモ含ミ居レルニ付本官ハ西田会審官ヲモ立会ハシ
ムルコトシ同日午後六時半支那日本米國三会審官ノ会審
ヲ行ヒ居留地警察署代表支那政府代表各弁護士及ヒ被害者
細山等ノ出席アリ審理二時間ノ後犯人二名ハ犯罪ノ証跡歷
然タルモノトシ支那官憲ニ引渡スコトニ決定セリ犯人等ノ
口述ニ依レハ一名ハ Oosboohoo (王曉榮) ト称シ二十六歳吉林人ニ
シテ十八歳ノ時同盟會員トナリ最近長春ニ居住セシカ本年
六七月袁世凱帝制ヲ計ラントスル頃ヨリ其有力ナル贊成者
タル鄭汝成ヲ暗殺セントシ十月下旬南京ニ来タリ十一月八
日上海ニ入り仮租界友人宅ニ宿泊シ十日ハ日本皇帝陛下ノ
即位当日ニシテ鄭力祝賀ノ為メ總領事館ニ赴クヘキヲ知リ
「ガーデン、ブリッヂ」附近ニ待チ構ヘタルニ大礼服著用

往電第一三五号ニ闕シ犯人ノ審理カ急速ニ行ハレ引渡ニ決
定セルハ一ハ支那官憲ノ希望ト居留地警察カ時節柄迅速引
渡ヲ終リ係累ヲ避ケンコトヲ望メル結果ニシテ犯人弁護士
「ライス」モ審理ニハ出廷セズ取調モ極メテ簡単ニ犯人ノ
口述ヲ聽ケルノミニテ真相ハ未タ判明シ居ラス尚ホ内々探
リ中ニ付キ聞込ミノコトモアラバ更ニ電報スベシ

二二二 十一月十二日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

鄭鎮守使暗殺犯人ヲ上海会審衙門ガ中國官憲
ニ引渡ニ決定ノ事情報告ノ件

第一三六号 公使ヘ電スミ

公使第一三六号ニ闕シ犯人ノ審理カ急速ニ行ハレ引渡ニ決
定セルハ一ハ支那官憲ノ希望ト居留地警察カ時節柄迅速引
渡ヲ終リ係累ヲ避ケンコトヲ望メル結果ニシテ犯人弁護士
「ライス」モ審理ニハ出廷セズ取調モ極メテ簡単ニ犯人ノ
口述ヲ聽ケルノミニテ真相ハ未タ判明シ居ラス尚ホ内々探
リ中ニ付キ聞込ミノコトモアラバ更ニ電報スベシ

二二三 十二月五日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

革命党一派ガ江南製造局ヲ襲撃シタルラシキ
旨報告ノ件

第一五三号

公使ヘ転電済

十二月五日午後六時半頃ヨリ江南製造局方面ニ於テ水陸ノ
砲声盛シナリ右ハ多分革命党一派が内応ノ軍艦ノ援助ヲ得
同局ヲ襲撃セルモノト察セラル居留地内往来寂シキ外差シ

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二二四 二二五

タル異状ナシ

二二四 十二月五日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳其美一派ノ江南製造局城県衙門等襲撃開始

ニ関シ陳其美ノ談報告ノ件

第一五四号

公使ヘ転電済

數日以来陳其美一派ノ信スヘキ筋ヨリ彼等ガ軍艦ヲ引入レ
製造局襲撃ノ計画アル旨内報アリ今五日午後五時愈々実行
スヘキヤノ報道アリタル処午後六時半頃ニ至リ水陸ノ砲声
製造局方面ニ起リ今尚継続中ナリ西田ガ午後七時内密ニ陳
其美ニ面談聞込メル所ニ拠レハ予テ内通ノ肇和応瑞ノ二隻
ハ漸次北方ノ注意スル所トナリ肇和ノ出港ヲ命セラルルニ
至リ予テ他ノ軍艦ヲ集中スルノ形勢アル一方南京馮国璋一
派ヨリ急ニ挙事ノ督促アリ且ハ政治公報ニ立帝的文字ヲ使
用シ始メタルニ見テ帝制ノ実現遠カラサルヘシトテ愈々兵
ヲ起シ始メタルモノナリトナシ広東ハ本日浙江ハ明六日南
京ハ不日何レモ事ヲ挙クヘキ手筈ニ打合セ居レリトシ製造
局陥落ノ曉ニハ王寵惠ヲ外交主任ニ任シ領事団等トノ交渉

穏ニテ仏國租界ニハ二個ノ砲弾落下シ建物ニ損害アリ共同
租界ニモ一発ノ砲弾落チタルモ何レモ人命ニ害ナク南市其
他支那町ニ近キ部分ノ外商店其他ノ状況差シテ平常ニ異ナ
ラス閻北方面ニモ何等異状ナシ

第一五六号

公使ヘ転電済第一五一号

一二六 十二月六日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

革命党一派ノ江南製造局襲撃ハ成功覚束ナキ
模様ナル件

第一五七号

公使転電済ミ

一二七 十二月六日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

革命党ノ江南製造局襲撃ハ失敗ニ終リタル旨

報告ノ件

交渉使署ニ付確メタル所ニ依レハ昨夜革命軍ニ強請セラレ
内応シタル軍艦ハ肇蘇一隻ニシテ今早朝海圻(昨朝入港セ
ルモノ)ヨリ砲撃ノ結果數名ノ死傷者ヲ出シタル後乗組員
ノ一部ハ遁走シ残余ハ目下審理中ニシテ製造局ニハ差シタ
ル異状ナク楊將軍ハ依然同所ニアリテ治安ヲ維持セリトノ
コトニテ當館警察員カ今朝実地視察セル所ニテモ水上モ亦
平穩ニシテ広貞福安等他ノ軍艦水雷艇等ニハ異状ナク要ス
ルニ今回ノ事件ハ之ニテ大体終末ヲ告ケタルモノト認メラ
ル

置ニ出テ二三名ノ監禁セラレテ居所ノ搜索セラルルモノア
ル等唯今迄ノ所成効ハ多分覚束ナカルヘク尤モ今朝モ尚肇
蘇ハ戦闘準備ヲ為シ居ル模様ナリ他ノ軍艦ハ毫モ異状ナシ

御参考迄ニ

二二八 十二月六日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

革命党ノ江南製造局襲撃ガ失敗ニ帰シタル顧

第一五八号

公使ヘ転電済ミ

ニ当ラシムル筈ニテ城県衙門警察厅等ハ只今襲撃中ニテ閻
北警察ハ既ニ内応シ居レリト云ヒ自分ノ目的ハ北軍ノ最集
中セル当地ヲ陥レ他ノ心胆ヲ寒カラシムルニ在リテ終局ハ
袁ヲ失墜セシメサレハ已マサル決心ナリトシ居タリトノコ
トニテ製造局ノ運命ハ尚確カナラス

二二九 十二月六日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳其美一派ノ江南製造局等襲撃及市内状況ニ
関シ報告ノ件

第一五九号

公使ヘ転電済ミ

製造局方面ノ砲声ハ十時前後迄継続シ次テ夜半二時過ヨリ
暫ク小銃ノ音高ク今朝五時更ニ三十数発ノ砲声ヲ聞ケリ仏國
租界ト支那街ノ境界ハ双方警官及兵士ヲ出シテ嚴重警戒出
入ヲ禁シ居リ製造局内部ノ状況明ラカナラサルモ幹部ハ依
然同局ニアリ其損害モ甚シク大ナラサルモノノ如ク南市
警察ハ一度革命軍ノ襲フ所トナリタルモ遂ニ擊退シタル模
様ニテ之等附近住民ノ陸統仏租界ニ避難スルモノ多ク一部
ハ多少ノ混雜ヲ來セルモ城内等ハ嚴重警備ノ下ニ比較的平

第一五九号

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二二六 二二七 二二八

二〇七

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二二九

二〇八

公使ヘ転電済ミ

往電第一五七号ニ閔シ交渉使署ニ確メタル情報ニ依レハ肇
蘇ヨリ砲撃ヲ開始セル際ハ恰モ北京ヨリ来レル薩鎮冰等ノ
宴会アリ李總司令モ出席中ナリシモ李ハ直チニ軍艦海琛ニ
至リ^{ガシ}ヲ糺シ内応者ノ肇蘇一隻ナルヲ確メ之カ处分方ヲ北
京ニ講訓シタル處今朝三時ニ至リ場合ニヨリテハ擊沈スル
モ可ナル旨回訓ヲ得砲撃ヲ継続セルニヨリ遂ニ今早朝海琛
ニ発砲ヲ命シタルモノニシテ製造局内ノ損害ハ差シタル程
度ニアラストシ南京浙江等ヨリノ情報ニモ只今迄ノ処何等
異状ナシトノコトニテ尚本件等ニ依ル市面ノ不安ヲ救済ス
ル為メ差当リ五十万元ヲ交通中国銀行ヨリ支出セシメ民心
緩和ヲ計ル筈ナリトセリ要スルニ革命党今次ノ計画ハ差當
リ茲ニ失敗ニ帰セルモノト認ム

二二九 十二月六日 在南京高橋領事ヨリ
革命党ノ江南製造局襲撃ニ閔聯シ南京方面ノ
状況及馮國璋ノ動靜ニ付報告ノ件

第六一號

十二月五日上海ニ於ケル出来事ニ閔シ將軍署巡按使署トモ

馮國璋ノ行動ニ付テハ其後トモ注意ヲ怠ラサルガ未タ怪ム
ヘキ現象ナク禁衛軍參謀長ノ如キハ袁世凱が禁衛軍中ノ不
平分子買収ノ為馮三百二十万元ヲ贈与セリ云々ノ上海新聞
ノ記事ヲ一笑ニ附シ万ニ斯ル事モアラバ願ヒテモナキコト
ナルガトテ本日館員ニ対シ衷心ヨリ笑ヒ興ジ且馮ニ対スル
新聞紙上彼レはレノ記事ハ要スルニ袁馮両者ヲ離間スルノ
手段ニ過キサルナリト云ヒ居タリト尚馮國璋ハ過般來持病
ノ僕麻質新加フルニ不眠症ニ罹リ居ル由ニテ一切外來者ニ
ハ面会ヲ謝絶シ居レリ又過般來上京中ナリシ夫人ハ十數日
前帰寧セリ
在支公使及在上海總領事ニ転電セリ

二三〇 十二月六日 在漢口瀬川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)
上海江南製造局襲撃事件ノ漢口地方ニ及ボセ
ル影響ニ付報告ノ件

第一二七號

革命党カ上海機器局ヲ襲撃セリトノ電報ハ昨夜來陸統当地
ノ各方面ニ到著セリト雖未タ之ニ閔シ詳報アラサルヲ以テ
只今迄ノ所商業上ニモ差シタル影響ヲ及ボシタル模様ナク
市内一体ニ平穏ナリ右ニ閔シ交渉員ノ本官ニ語ル所ニ依レ
ハ目下漢口ニハ革命党員ノ潜伏セル形迹ナク且文武官中勢
力アルモノハ何レモ袁派ニ屬スルモノ多キヲ以テ当地ニ於
テハ容易ニ動乱ノ起ルヘキ虞ナキモノト信スト

北京ヘ転電ス

二三一 十二月七日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

革命党一派ガ上海城内西門及閘北警察ヲ襲撃

シタル件

第一五九号

革命党一派ガ上海城内西門及閘北警察ヲ襲撃

十二月六日何等異状ナカリシ処午後十一時前約三百名

公使ヘ転電済

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二二九 二二一 二二二

二〇九

今朝來善後策ニ付會議ヲ重不多忙ヲ認メラレ又停車場附近

ニ於テ蘇州動搖ノ謠言行ハレ居ルカ右事實及謠言共ニ未タ

一般ニ周知セラレサル模様ニテ城内外トモ何等目立チタル

変象ヲ呈セス又鄭將軍ノ凶変以来軍警ノ警戒一層嚴重ニナ

リ茶館浴場多人数集合スル場所ニハ當時密偵ヲ放チ政談ヲ

禁シ謠言ヲ取締リ苟モ之ニ違フ者ハ仮借セサル由ニテ今朝

來警戒更ニ嚴重ヲ加ヘタリ

馮國璋ノ行動ニ付テハ其後トモ注意ヲ怠ラサルガ未タ怪ム

ヘキ現象ナク禁衛軍參謀長ノ如キハ袁世凱が禁衛軍中ノ不

平分子買収ノ為馮三百二十万元ヲ贈与セリ云々ノ上海新聞

ノ記事ヲ一笑ニ附シ万ニ斯ル事モアラバ願ヒテモナキコト

ナルガトテ本日館員ニ対シ衷心ヨリ笑ヒ興ジ且馮ニ対スル

新聞紙上彼レはレノ記事ハ要スルニ袁馮両者ヲ離間スルノ

手段ニ過キサルナリト云ヒ居タリト尚馮國璋ハ過般來持病

ノ僕麻質新加フルニ不眠症ニ罹リ居ル由ニテ一切外來者ニ

ハ面会ヲ謝絶シ居レリ又過般來上京中ナリシ夫人ハ十數日

前帰寧セリ

在支公使及在上海總領事ニ転電セリ

ノ暴徒爆裂弾拳銃等ヲ携帶シ城内西門ヲ襲ヒタルモ衛兵ニ
擊退セラレ支那側及仏國租界ニ遁込ミタルモノノ内二十四
人ハ逮捕セラレ尚多少ノ死傷者ヲ出セリ同時ニ一隊ハ閘北
警察ヲ襲撃シ騒擾ヲ來シ警察員ハ一時遁走セルモノモアリ
シ模様ナリシモ間モナク鎮靜セリ右ニ付居留地保護及亂党
ノ逃入ヲ防ク為居留地會ハ午前一時義勇隊ヲ召集シ部署ヲ
定メ終夜警戒ヲ加ヘタリ但シ右等暴挙ハ何レモ差シタル事
件トハ認メ難ク人力車夫ストライキモ妥協略亦調ヒ諸事追
々鎮靜ニ向フモノト認スマル

二三二 十二月八日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

上海居留地内ノ匪徒取締方ニ閔スル外交總長

ヨリ在中国公使宛公文ニ付報告ノ件

第一六〇号

在支公使第六七七号

外交總長ヨリ十二月六日附公文ヲ以テ昨日上海ニ於テ土匪

擾乱ヲ企テ軍艦ヲ脅カシテ砲撃ニ及ビタル事件アルモ幸ヒ

陸上ノ防備周到ナリシカ為直ニ鎮靜ニ帰シタルカ該匪徒等

ノ暴動ハ今回モ亦居留地ヨリ發生シタルモノニシテ公共ノ

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二三三

一一〇

本信写送附先 在上海總領事

(附屬書)

十二月六日附陸外交總長ヨリ日置公使宛來翰写

照會

外交總長陸

治安及商務ノ大局ニ害ヲ及ホスコト尠ナカラスト認ムルニ付本使ヨリ上海領事ニ電命シ居留地内ニ潜匿セル匪徒及軍器等ヲ嚴重ニ搜索シ若シ支那官吏ヨリ指摘セラレタル場合ニハ直ニ引渡フ行ヒ以テ中外商務ノ大局ヲ維持セラレントヲ希望ストノ趣旨ヲ申越セリ委細ハ郵報ス尚右ノ照会ハ各国公使ヘ同様ニ發シタル趣ナリ

一三三 十二月八日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛

上海居留地内匪徒取締方ニ関スル外交部來翰

写送付ノ件

附屬書 十二月六日付陸外交總長ヨリ日置公使宛來翰写
公第二九三号 (十二月十四日接受)

大正四年十二月八日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

上海總領事經由往電第六七七号ヲ以テ大要及報告置候本件ニ關スル外交總長ヨリノ照会ハ別紙写ノ通りニ有之候御查閱相成度候也

大日本欽命駐華全權公使日置
中華民國四年十二月六日

居ルノ傾向ナリ
右御参考迄及申報候也

二三四 十二月十日 李家長崎県知事ヨリ
石井外務大臣各宛

上海暴動事件ト帝制問題ニ對スル長崎居留中
国人ノ意嚮ニ關スル件

高秘特收第三四三〇号

(十二月十三日接受)

大正四年十二月十日

長崎県知事 李 家 隆 介

内務大臣法学博士

外務大臣男爵

石井菊次郎殿

長崎在留支那人ノ大多数カ支那帝制問題ニ付不贊意ヲ表シ居レルコトハ曾テ及報告置候次第ニ有之候處今回上海ノ暴動ニ於テモ支那帝制問題カ之ヲ促進セシメタルモノト為シ強テ帝政ヲ實行スルニ至レハ向後各處ニ強大ナル擾乱勃發シ支那国内ノ秩序ハ到底保持シ能ハサルニ至ルヘク隨ツテ

日本ノ商業上ニ及ホス影響ハ鮮少ナラサルヲ以テ曩ニ日本カ支那政府ニ対シ帝政ノ實行上警告ヲ与ヘタルハ寧ロ当然ノコトタルヘシトテ該警告問題ニ就テモ日本ノ処置ヲ擇ヒ

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二三四 二三五

一一一

本信写送附先 在上海總領事

(附屬書)

十二月六日附陸外交總長ヨリ日置公使宛來翰写

照會

外交總長陸

照會事上海爲本國通商巨埠中外商務倚爲樞紐關係極重近年來匪徒特租界內爲本國法權所不及常藉作謀亂之根據地不但該埠常生擾亂即其他各處偶有事故亦與上海租界隱居之匪徒多有關係迭請

貴公使飭駐該埠領事官認眞取締迄今匪類肇事仍未稍戢昨日下午五時許有匪徒數十由租界雇乘小輪駛近肇和練船趁星期放假兵士留船無多匪等突起登船各持手槍炸彈搶劫放礮約一時許幸岸上軍警布置周密地方得以無恙亂事隨卽平息查此次匪徒雇輪肇事又係從租界發生此等舉動實於公共治安商務大局極有妨害請

貴公使電飭上海各領事官認眞查禁匪徒潛匿界內並搜查私藏軍器遇有中國官吏指名匪犯立即緝交以期維持中外商務大局須至照會者

右 照 會

今回ノ上海事變審理ニ當リ蒙古匪賊並ニ今回ノ暴動者ノ使用銃器ハ何レモ日本ヨリ供給セラレタル事ノ証拠ヲ得タリ孫文ノ署名ヲ存スル書類ハ彼カ盛ニ日本ヲ策源地トナシツツアルノ事實ヲ示セリ日本政府ハ此事実ヲ熟知セル筈ナルニ不拘孫文逐放ノ手段ヲ講セス尚在上海日本總領事カ十二月一日東京ヘ向ケ何等力速カニ画策スル所ナクンバ帝制運動ハ成功スヘシト電報シタル事實スラアリ孫文ニ協力シツツアル日本人力上海ニテ暴動ヲ釀生シタル一事ハ確実ナリ尚同日ノ紐育「トリビューン」ハ「ゼンクス」博士(デレ

一一二

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二三六

クトル、ファー、イースト、ビューロー)ノ右ニ関スル

「ステートメント」ナルモノヲ掲載セリ要旨左ノ通り

若シ日本ニシテ真ニ支那ニ友情ヲ有スルモノナラハ脅迫干

渉ノ代リニ支那自強ノ策ニ向テ支那ヲ援助スヘシ然ルニ右

ノ如キ上海事変ニ関スル情報アルノミナラス確実ナル筋ヨ

リノ報ニ依レハ日置公使ハ今春日支交渉ニ上リタル第五項

ニ関シ商議再開ノ訓令ヲ帶ヒテ帰任シタルナリトノコトナ

ルカ支那ハ到底其警察權ヲ挙ケテ日本ニ委ヌル能ハス又支

那ハ他国ノ指導ヲ俟タスシテ能ク自ラ警察行政ニ任シ得ヘ

シ滿朝末年及ヒ現政府出現以来支那ニ於ケル動搖ノ歴史ハ

上海ト東京トヲ焦点トセリ即チ東京ハ參謀本部ニシテ上海

ハ策戰根拠地ナリ今回ノ暴動者等カ現ニ日本ニアリ而シテ

日本ノ意ニ和シテ反袁画策ヲナシツアリト信セラル孫文ヨリノ命令書ヲ所持セルノ事実ハ大ニ意義ヲ存セリ素ト

支那ノ政体ハ支那人ノ選択ニ委スヘク日本ヤ米國ノ関与ス

ヘキモノニアラス云々

尚今回ノ事變ニ關シ特ニ注意スヘキモノ四点アリトテ其内

西貢東京電報ハ日本軍艦ノ上海ニ急派セルコトヲ報スト意

味アリゲニ記述セリ

一一六 十二月十日 在ニユーヨーク中村總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

上海暴動ニ日本又ハ日本人ガ関係セルガ如キ

報道ノ在紐育極東局ヨリ各新聞紙ニ發表ノ件

第一四三号

當地極東局ハ十二月十日ノ各新聞紙上ニ左ノ如キ十二月九日北京發電報ヲ發表セリ

上海事件ニ關シ調査ノ結果反乱ニ使用セル武器ハ日本ノ供給セルモノナル事ヲ発見セラレタリ又孫逸仙ノ署名アル文書ニ依リ同人ハ日本ヲ策源地トナセルコト明瞭トナレルガ

此事実ハ日本政府ノ知悉セル處ナルニ拘ラス何等ノ手段ヲ執ラサリキ尚又十二月一日日本總領事ハ至急相当ノ手段ヲ講セスンば帝政問題成功ノ虞アリト東京ヘ打電シタル等今

回ノ事件ハ孫ト共謀シタル日本入カ上海ニ於テ之ヲ起シタルモノナルコト確ナリ云々

將又 Jenks 博士ハ右電報ニ關聯シテ長文ノ「ステートメント」ヲ發表シ日本軍艦カ上海ニ急派セラレタリトノ東京

電報ヲ以テ最モ注意スヘキ事項トナシ如何ニモ本件反乱カ日本ノ煽動ニ係ルモノノ如キ口調ヲ弄シ又日置公使ノ遽ニ

ルモノナルコト確ナリ云々

將又 Jenks 博士ハ右電報ニ關聯シテ長文ノ「ステートメント」ヲ發表シ日本軍艦カ上海ニ急派セラレタリトノ東京

電報ヲ以テ最モ注意スヘキ事項トナシ如何ニモ本件反乱カ日本ノ煽動ニ係ルモノノ如キ口調ヲ弄シ又日置公使ノ遽ニ

ルモノナルコト確ナリ云々

第一三〇号

公使宛十二月十一日第一〇九号

革命黨員詹大悲楊士傑等同行シテ漢口ニ來リ日本租界懷安里ニ住スル熊童兩姓ノ家ヲ本部トシテ各地ニ運動シ陰謀ヲ企テ上海ト連絡シテ事ヲ挙ケントスルニ依リ右嚴密ニ捕獲スヘシトノ上諭アリタル旨北京統率弁事處ヨリ湖北將軍ニ電報アリタルヲ以テ將軍ハ右捕縛方ヲ嚴命シタル由ニテ十

一日早朝丁交渉員ハ警察廳長探偵總長洋務委員等ト共ニ當

館ニ來リ詹大悲等ノ引渡ヲ請求シタリ本官ハ我租界内ニ右

様ノ人物住居セルコトヲ承知セサルニ依リ十分取調ブヘキ

旨答ヘタルニ交渉員ハ大總統ノ命ナレバ必ス之ヲ捕縛シタ

キニ付日支兩國ノ警察官立会ノ上直チニ捜査ニ取掛リタシ

ト述ベタリ本官ハ我租界内ノ事ハ我警察ノ力ヲ以テ取調フ

ルニ依リ支那警察官ノ立会ヲ要セサル旨穩カニ述ヘタルニ

交渉員ハ本件ハ最モ重大事件ニシテ漢口全体ノ治亂ニモ閑

スルカ故ニ是非支那官憲モ立会捜査シタシト主張シタルモ

本官ハ断然之ヲ拒絶シ彼此間答スルコト二時間ニ亘リタル

後結局我警察ノ手ニ於テ一応捜査スルコトナリ交渉員等

一同引取りタリ依テ本官ハ先方ノ指定シタル場所ヲ捜査セ

二三七 十二月十一日 在漢口外務大臣ヨリ
石井外務大臣(電報)

在紐育極東局ノ性質等電報方訓令ノ件

第四六号

貴電第一四三号極東局ノ何タルヤ不明ニ付其性質等電報アリ度シ

二三八 十二月十一日 在漢口外務大臣ヨリ
石井外務大臣(電報)

漢口日本租界内ニ於テ革命黨員詹大悲楊士傑等ガ陰謀ヲ企テ居ル趣ヲ以テ中国官憲ヨリ同人等ノ引渡要求アリタル件

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二三七 二三八

シメタルニ前記革命党員等ノ同居セル何等形跡アラザリシヲ以テ不取敢川越官補ヲ交渉員ノ許ニ遣ハシ詹大悲等ガ日本租界内ニ本部ヲ設ケ陰謀ヲ企テ居ル形跡アラサルコトヲ述ヘシムルト同時ニ斯ル報道ハ何人力為ニスル所アリテ捏造シタルモノト信セラルニ付嚴重ニ其ノ出處ヲ取調べ今後重ネテ此ノ如キ無益ノ騒ギ立テヲ為サザル様注意シ而シテ若シ出来得ルナラバ該報道ノ出處ヲ本官ノ参考迄ニ内報アリタシト申込ミ置ケリ

右御参考迄ニ申進ス

大臣転電済ミ

一一三九 十二月十一日 在ニヨーク中村總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

在紐育極東局ノ性質ニ付報告ノ件

第一四四号

貴電第四六号及通送第七一号貴信ニ關シ Far Eastern Bureau 一九一三年 Jenks ノ設立シタルモノニシテ同氏自ラ主管者トナリ多年東洋ニ在リシ Patrick Gallagher ナル者ト共ニ經營ノ任ニ当リ居リタルカ一説ニ依レハ往年「ジエンクス」ハ支那政府ノ懇望ニ拘ハラス顧問ヲ辞退シタル

第六七〇号

日本カ上海ニ於ケル革命反乱ニ關係アリトノ紐育極東局發表北京電報ハ在紐育總領事來電第一四三号及在米大使來電第二七六号ニ依リ又極東局ノ性質ハ在紐育總領事來電第一四四号ニ依リ夫々御承知ノ通ナルニ付貴官ハ至急支那政府

電報ヲ取消ス様中国政府へ申入方訓令ノ件

一一四〇 十二月十二日 在中国日置公使宛(電報)

日本カ上海ニ於ケル革命反乱ニ關係アリトノ紐育極東局發表北京電報ハ在紐育總領事來電第一四三号及在米大使來電第二七六号ニ依リ又極東局ノ性質ハ在紐育總領事來電第一四四号ニ依リ夫々御承知ノ通ナルニ付貴官ハ至急支那政府

際支那ニ於テ働く代リニ米國ニ於テ支那ノ為ニ働くカントノ趣旨ニテ之ヲ設立シタルモノナリト称セラル爾來「ジエンクス」ハ常ニ専ラ袁世凱ノ利益上ニ極力弁護ノ労ヲ取リツツアリ從テ「ファー、イースタン、ビューロー」ノ発表ニ係ル諸電報モ支那政府又ハ其手先ヨリ發送セラルモノト推測セラル依テ出来得ヘンハ北京ニ於ケル然ルヘキ筋ノ注意ヲ喚起シ前電ノ如キ排日的報道ヲ再ヒ發セシメサル様致シタシ尚前電所載ノ大部分事実無根ト思考セラルモノ弁駁上心得ノ為メ何分ノ義電報アリタシ

当局者ニ対シ右電報ヲ指摘シ上海反乱ノ真相ハ同国政府ニ於テモ逐一調査ヲ遂ケラレタルコトト思料スル處其結果何等右電報類似ノ報道ニテモ有ン居ラル次第ナリヤヲ確メ

ラレタシ尚帝国政府ニ於テハ日本ノ如何ナル方面ニ於テモ革命党等ニ武器供給其他ノ援助ヲ与ヘ又ハ彼等ヲ煽動シ若

クハ日本ヲ策源地トシテ事ヲ為サシムルガ如キコト断シテナク常ニカカル不都合ナキ様嚴重処置シ居リ十一月六日在本邦支那公使來訪ノ際本大臣ヨリ特ニ右取締一層嚴重ニ為スヘキニ付支那政府ニ於テ安心アリタキ旨同公使ヨリ本国政府ニ伝言方申入置キタル次第ナルガ右ノ趣旨ハ相違ナク支那政府へ通シ居ル儀ト信スル旨ヲ述ヘラレタク將又何等事実モナキニ本件電報ノ如キ報道伝ハルコトハ日支両国ノ國交上ニモ悪影響アリト認ムニ付両国政府ヨリ該電報ノ

全部ヲ取消スコトニ取計度帝国政府ニ於テハ現ニ右取消実行方を米大使ヘ電訓シタル旨申入レラレ結果電報アリタシ

右往電第六六七号、第六六九号及第六七一号ト共ニ参考トシテ上海ヘ転電アリタシ

上海ニ於ケル革命党ノ動乱ニ關シ詳報ノ件
附屬書 右報告書
機密第一〇〇号
(十二月二十一日接受)
大正四年十二月十三日
在上海
総領事 有 吉 明(印)
外務大臣男爵 石井菊次郎殿
本信写送付先 北京公使
(附屬書)
上海ニ於ケル革命党ノ動乱ニ關スル報告書
一、革命動乱前ノ状況
二、肇和艦ノ製造局砲撃ト革命党ノ南市方面ノ騒擾
三、上海西門外並ニ閘北警察署ノ襲撃
四、革命動乱ノ被害ト当地人心ニ与ヘタル影響
五、動乱後ニ於ケル革命党及肇和艦長等ノ状況並ニ居留地

一一四一 十二月十三日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二四一

二二五

側ノ態度

一、革命動乱ノ状況

帝制問題ニ対シテハ当地官憲側並ニ総商会等ノ一部人士力贊成セル外在野各党ノ反対セルハ勿論有識者間ニハ甚々不人気ト認メラレタルモ何レモ官憲ノ圧迫ト威嚇ヲ恐レテ公然ニ反対ヲ唱フルモノナク新聞紙モ中華新報及愛國報（本月上旬遂ニ発行禁止トナレリ）カ激烈ニ反対シ時事新報ハ比較的穏和ニ反対セル外申報新聞報時報ノ如キ衷心帝制ニ賛成ヲ表シ居ラサル論調記事ヲ時々掲クルコトアルモ大体ニ於テハ形勢ヲ傍観セル態度ニテ且ツ政府側ヨリノ買収手段廻リ居ルコトトテ特ニ反対ヲ表シ難キモノノ如ク唯政府機関紙タル亞細亞報及神州日報ハ極力帝制ノ鼓吹ニ努メ居リシ状況ナリシカ在野党ニ於テハ各系統ヲ異ニセル同志間ニ窺ニ会合シテ反対運動ヲ試ミ居レルモ多クハ金力其他ノ実力ナキ為ニ具体的ニ反対ノ企策ナルモノ立ツニ至ラサリシ处前国民党派タル陳其美ハ十月末ニ当地ニ再ヒ潛来シ窺ニ各方面ニ聯絡ヲ計リ居リタルニ一方警告ニヨリ一時遅延セントゼン帝制問題モ益其实行ノ準備ヲ整ヘ来リタルヨリ帝制反対者ニ於テハ中外ノ注意ヲ惹キ易キ上海ニ於テ事ヲ

軍側ヨリモ極秘ニテ上海起事ヲ督促アリ浙江内応ノコトモ確メラレ袁帝ノ文句ハ政府公報ニモ掲載セラルニ至リタルニ若シ肇和ニシテ当地出港セハ製造局奇襲ノ計画モ容易ニ実行セラレサルヨリ遂ニ同艦ノ出港ノ前日タル本月五日タヲ期シ事ヲ挙クヲコトニ決定シタル由ニテ右肇和トノ聯絡ハ當館ニ於テハ約式週間前ヨリ極秘トシテ情報ヲ得居リタルモ何分斯ル情報ハ實際ニ於テ実行シタル後ナラテハ事実判明難致ニ付実行ニ至ル迄報告モ差控ヘ居リタル次第ニ有之候

二、肇和艦ノ砲撃ト革命党ノ南市方面ノ騒擾

革命党側ノ伝フル所ニ依レハ十二月五日ハ肇和艦出港ノ前日ニ付キ乗組員ハ上陸シ所用ヲ便スルノ通例ナルモ内応者タル同志ハ当日上陸セス艦ニ止マリ且ツ当夜ハ薩鎮冰ノ歓迎会共同居留地ニアリシヲ以テ各艦長以下重ナル将校ハ該会ニ出席セルヨリ臨時海軍総司令タル楊虎ハ同志ノ海軍候補生及革命党員等約四十名ヲ率ヰ小蒸氣式艘ニ分乗シテ午後五時頃肇和ニ赴キ艦内ノ内応者ノ援助ヲ得テ他乗組員ヲ威嚇シ午後六時半頃ヨリ製造局ヲ砲撃セシメタリ而シテ応瑞ニモ參四拾名ノ一隊赴ク管ナリシモ右小蒸氣船カ漸ク二

日前ニ買約シタルモノニテ未タ税闘ノ手続ヲ終ラサリシ為メ居留地埠頭ニ繫留ノ許可証ナカリシ為メ右一隊カ小蒸氣船ニ乗組ム能ハサルノ手違ヨリ遂ニ応瑞ヲシテ直ニ内応セシムル能ハサル達算ヲ生シ從ツテ肇和応瑞ノ武隻ヲシテ先ツ製造局ニ威嚇砲撃ヲ行ヒ製造局内ノ軍隊ノ動搖セルニ際シ直ニ両艦ヨリ三隻ノ小蒸氣船ニテ水上ヨリノ上陸戦隊ヲ作リ製造局ノ防備ナキ方面ニ上陸シ同局ヲ奇襲スル原計画ニ一頓挫ヲ來シタルモノノ如ク一方陸上ニ於テハ革命党員約百余名ハ三三隊ニ分レ何レモ爆裂弾及短銃ヲ持シ製造局砲撃ヲ開始スルヲ合図トシ南市警察署ヲ襲撃シテ製造局ニ向ハントシタルニ初メ同警察署ニ於テモ事ノ不意ニ起リタルト巡警數名ノ死傷ヲ出セルヨリ一時ハ頗ル驚騒シタルモ約式個中隊ノ陸軍ノ救援アリテ遂ニ革命党ノ警察署襲撃モ失敗ニ帰シ三四逮捕セラレタルモノノ外午後十時頃多クハ遁散スルニ至レリ

而シテ肇和ヨリノ製造局砲撃開始ヨリ約二時間ニ参拾發内外ヲ發射シタルモ其後發砲ヲ中止シ午後十一時ヨリ翌午前一時ノ内ニ約式拾發ヲ發射シタル由ナルカ午前五時前後ニ至リ応瑞ヨリハ遂ニ肇和ノ砲撃ヲ開始シニ三發肇和ニ命中

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二四一

二二八

ノ結果砲手等二二名ノ死者三名ノ傷者ヲ生シ甲板ノ一部ヲ破壊セラルニ至リタルヨリ楊虎等ハ内応者ノ主ナルモノト共ニ更ニ小蒸氣船ニテ肇和ヲ去リ浦東ヲ経テ上海ニ遁帰シ茲ニ製造局砲撃ノ奇襲モ効ヲ奏セス失敗ニ帰セリ右肇和砲撃ニ關シ最初製造局ニ対シ二三十発ノ威嚇砲撃ヲ行フヤ製造局ヨリハ降参ヲ申出テ引渡協議ヲ行フ為メ二三時砲撃ノ猶予ヲ与ヘヨトノ通知アリシヲ以テ砲撃ヲ中止シタルニ十一時ニ至リテモ其確答ニ接セサルヨリ更ニ砲撃ヲ続行スルヤ更ニ暫時ノ猶予ヲ求メ來レリ然ルニ同夜十二時頃薩鎮冰ハ十万元ヲ交通銀行ヨリ引出シテ応瑞ニ持參シ応瑞ヨリ肇和ヲ砲撃スヘシトノ命ヲ与ヘタルニ最初之ニ応スルモノナカリシモ遂ニ午前四五時頃ニ至リ肇和カ製造局ノ砲撃ヲ続行セルヨリ応瑞ノ砲手ヲシテ肇和ヲ砲撃セシメタルモノナリト称シ居レリ

一方支那官憲側ノ報道ニヨレハ当日肇和艦上乗組員ノ多カラサルニ乘シ三四十名ノ革命黨員小蒸氣船ニ搭乗襲撃シ来リ乗組員ハ拳銃等ヲ以テ強迫セラレ發砲ヲ余儀ナクセラレタルモノニシテ弾丸ノ全ク標的タル製造局ニ命中セス遠ク居留地内ニモ飛來セルハ射手カ態ト照尺ヲ達ヘタルモノ

ニシテ右ノ変ヲ聞クヤ當時各国居留地「カーレトン、カツフエ」ニテ薩鎮冰等ト会食中ノ李總司令ハ直ニ海琛ニ至リ形勢ヲ視察シ時既ニ夜陰ニシテ且ツ濃霧ナルヲ以テ彼我砲撃ノ為メ或ハ無益ノ損害ヲ居留地ニ与ヘンコトヲ恐レタルト革命党ヲ乗セタル軍艦ヲ砲撃スルコトニ就キ一応北京ノ指揮ヲ仰クヲ必要ト認メ其手続ヲ取り午前三時降服セサレハ擊沈スルモ可ナル旨回訓ヲ得タルヲ以テ天明ヲ待テ直ニ砲撃ヲ開始シ數発ノ發射ノ後肇和艦上數名ノ死傷ヲ出シタル結果革命黨員ハ小蒸氣船ニテ遁走スルニ至リタルモノニテ右事件ノ起ルヤ楊將軍ハ竜華ヨリ直ニ製造局ニ入り指揮ニ当リ薩鎮冰モ軍艦応瑞ニ赴キタリトシ然シテ製造局ニ及ホセル損害ハ皆無ト称スヘク南市警察襲撃等ハ極メテ容易ニ擊退セリト事ナリ

叙上革命党側ノ消息モ元ヨリ全クハ信ヲ措キ難キト同時ニ官憲側ノ軍艦ノ砲撃ハ全ク強迫ニ出テタリトスルカ如キモ表面ヲ糊塗スルノ言ニ過キシシテ内応者ノ存セルハ事実疑ヒナク両者ヲ対照シテ較々其真相ヲ得ヘキカ如ク然シテ肇和ヲ砲撃セル軍艦ハ既電ノ如ク西田カ道尹公署ニテ確メタル處ニテハ海琛トノコトナリシモ其後當時製造局内ニアリ

シ楊晟モ応瑞ヨリ砲撃セリト語リ居タルト翌朝當館員カ実地視察セル所ニテモ海琛ニハ發砲セルノ模様ナカリシニ見テ応瑞ヨリセルコト事實ト認メラル尤モ支那官憲側ノ公報ニハ海琛ヨリセルモノノ如ク伝ヘラレ居レリ

三、翌夜ノ上海西門外並ニ閘北警察署ノ襲撃

翌六日夜革命党ノ一部ハ前夜ノ失敗ト嚴重ナル警戒アルニ拘ハラス警察署襲撃ノ二隊ヲ作リ一隊ハ約百余名ニテ午后十一時頃上海城西門外ノ警察署ヲ襲撃シタルモ警察隊及軍隊ノ為メニ擊退セラレ然シテ該所ハ人家稠密ノ場所ナルヨリ巡警及革命党並ニ普通人民等多少ノ死傷者ヲ出セリ又數十名ヨリ成ル他ノ一隊ハ閘北警察署ヲ襲撃セントシ最初同方面街上警戒中ノ立番巡警數名ヲ爆裂弾又ハ短銃ニテ死傷セシメタルヨリ一時該方面警戒配置巡警ノ一部ハ其勢ニ恐レテ警戒地點ヲ遁走シ暫時或ル地域ハ無警察ノ状態トナリタルモ閘北警察署ハ多數ノ巡警並ニ軍隊ノ警護アリシ為メ革命党ノ襲撃ハ容易ニ阻止セラレ翌朝ニ至リ秩序恢復セリ同夜閘北方面力僅々百名ニ足ラサル革命党ニシテ而カモ完全ナル武器ヲ有セサル烏合ノ一隊ニテ暫時タリトモ或地域ニ於テ斯ク秩序ヲ乱シ得タルモノハ閘北警察隊中ニ若干ノ

革命党ニ内通セシモノアリシモノノ如ク革命党側ノ情報ニヨレハ五日ノ夜若シ製造局カ占領シ得ラレシナラハ姜閘北警察署長ハ革命党ニ変シ直ニ參百名ノ警察隊ヲ率ヰ製造局外側防備ノ北軍攻撃ニ参加スル筈ナリシモ製造局襲撃失敗ノ結果实行ニ至ラサリシト称シ居レリ蓋シ閘北警察隊ハ何レモ天津方面ヨリ派遣セラレタル北方人ナルニ鑑ミ革命党ニ加担ノ意アリシトハ普通ノ考ニテハ斯ノ如キコトアリ得ヘカラサルコト思考セラルモ元來想像以外ノコトアル支那人ニツキ閘北警察隊ノ内応説モアリ得ヘキコトモ認メラル尚共同居留地ハ同夜義勇隊ノ臨時召集ヲ行ヒ革命党ノ居留地内ニ遁走ヲ防止シタルモ翌朝解散セリ

四、革命動乱ノ被害ト当地人心ニ与ヘタル影響

今回突然勃発シタル變亂ハ前述ノ如ク主力ハ僅カニ肇和艦ノ製造局砲撃ニ過キシテ陸上ニ於テハ單ニ百名内外ノ革命党及之ニ雷同セル武百名内外ノ烏合集團ノ蠢動ニ止マリタル為メ武日間ニ於ケル損害ノ如キモ单ニ多少ノ死傷者ヲ出シタルト十数名ノ無辜ノ人民カ流彈其他ニヨリ死傷ヲ生シタルト支那街二十数ヶ所ノ損害ト仮租界ニ数個ノ流砲彈落落チ一家屋ノ一部ニ損害ヲ來シ共同居留地ニ三四ノ砲彈落

下シタルニ止マリ大事ニ至ラスシテ鎮圧ニ帰シ製造局ノ如キモ僅カニ「ドック」附近及江岸ニ面シタル箇所ニ些少ノ損害アリタルノミナリシモ何分突如トシテ勃発シタル肇和艦ノ砲撃ハ一般人心ニ一時ハ少ナカラサル驚愕ト恐怖ヲ与ヘ居留地内ハ差シタル騒擾モ來ササリシモ製造局附近並ニ上海城内及南市方面ノ支那人ニハ突然起リタル砲銃声ハ第

二革命當時ヲ聯想シ変乱ノ拡大ヲ恐レ五日夜ヨリ六日ニ涉リ避難者ハ続々居留地内ニ遁レ來リ居留地旅館ハ俄ニ賑フノ奇觀ヲ呈シタルニ反シ支那街ハ嚴戒ト共ニ一時ハ非常ナル騒擾ヲ來シ種々ナル謠言起リタルモ比較的速カニ鎮定ノ結果本月十日頃ヨリハ避難者モ漸次帰宅シ始メタルモ今尚ホ水上ハ夜間支那街董家渡以南ヨリ製造局上流迄船舶ノ航行ヲ禁止シ陸上ハ午後八時ヨリ未明ニ至ル迄一航ノ通行ヲ禁止シ嚴重警戒セルヨリ支那街住民ハ其交通不便ニ対シ頗ル困難セル状態ナリ周道尹及上海知事並ニ警察庁ハ動乱ノ翌日ヨリ夫レ夫レ告示ヲ出し人心ノ動搖ヲ禁止シ居レルモ種々ナル謠言起リ人心不安ヲ免レサルモ漸次鎮靜ニ向ヒ支那街商業モ一両日間ハ殆ント停止ノ姿ナリシモ是亦漸次恢復シツツアリ

五、動乱後ニ於ケル革命党及肇和艦長等ノ状況並居留地側ノ態度

革命党幹部ハ陳其美以下多クハ仏国居留地内ノ数ヶ所ニ潜居シ居レル模様ナルカ今回ノ起事失敗ニヨリ同党員中約参拾名内外ハ死傷又ハ逮捕セラレタルモ多クハ下級党員ニシテ中級党員ニテハ海軍候補生ノ陳可鈞（廣東人）ノ逮捕セラレタルノミニテ各部ノ主任ハ海軍主任タル楊虎ヲ始メ何レモ遁レタル模様ニテ彼等ハ更ニ第二ノ計画ヲ企テ今尚軍内応者トノ聯絡ヲ持続セル由ナルモ目下ノ状況ニテハ当リ当地ニ於テ事ヲ起スハ至難ト認メラル肇和艦長黃鳴球（福建人五十五歳嘗テ袁克定ノ教師タリシ関係アリト云フ）ニ閔シ革命党側ノ内話ニヨレハ当日薩鎮冰ノ歓迎会ニ出席シ居リタルモ愈肇和艦ヨリ砲撃ヲ開始シタルヨリ同人ハ帰艦ヲ口実トシ仏租界内ノ邱某（元ト海軍将校）宅ニ赴キ二日間潛居シ居リタルニ薩鎮冰等ヨリモ今回事件ノ前後处分方ニ付キ同人ノ一身ニハ危害ヲ加ヘサル様取計フニ付製造局ニ帰ル方宜シカラントノ秘密勸告アリタルヲ以テ陳其美等トモ詰合ノ上事變勃發當時人力車ニテ製造局ニ帰リタル途中仏国居留地内ニテ革命党ノ為メ拘留セラレタルモ

人ヲモ保護ストノ告示ヲ發布セリ共同居留地内ニ於テハ事変以来一層嚴重取締ノ方針ニ出テ居レリ從ソテ陳其美以下革命党幹部モ一時ハ海外ニ亡命セントノ説アリシモ仏国官憲力内実寛大ニシテ保護的方針ニ出ツルヲ信頼セルモノカ当地ニ潜居シテ種々計画セル模様ナリ而シテ今回革命党力肇和ニ乗込ミタル小蒸氣船「平湖」ハ寧紹汽公司（寧波人ノ株主多シ）ヨリ売却シタルモノナルカ同公司ニ於テハ革命党ニ奪取セラレタルモノト称シ居レル處ヨリ同公司關係者ハ乱党加担ノ嫌疑ヲ受ケ居レル由ナリ

之ヲ要スルニ今回ノ事變モ革命党ノ失敗ニ帰シ一段落ヲ告ケタルモ彼等尚ニニ懲リス種々計画セルハ事實ナルモ支那官憲側ノ警戒嚴重ナル為メ他ノ各省ニ動乱ノ起ラサル限り今後差当リノ成功ハ至難ト認メラル尤モ最近当地ニ於テハ前国民党員ノ外袁政府擁護ニ努メシ進歩党ノ反帝制分子孫洪伊等モ統々北方ヨリ来リ新聞上ニ於テ帝制ニ反対シ過日北京進歩党ノ帝制贊成ノ決議ヲ承認セストノ当地進歩党ノ決議ヲ公表シ孫洪伊ノ如キハ詳細ナル袁世凱今日迄ノ惡劣手段ヲ發表シ同志ト共ニ反袁運動ヲ試ミツツアル模様アルハ注意ニ値スヘキモ權力金力武力ナキ該党員ノ運動モ俄ニ

効力アリトモ認メラレス其他伍廷芳唐紹儀等ノ在野人士モ沈黙冷静一言モ發セス其間帝制贊成ニ署名セサリシ有力者ハ何レモ政府ヨリ反対者ト認メラレ逮捕状ヲ發セラレタリトノ風説伝ハル等尙ホ一般ノ人心不安ヲ免レサル模様ナルモ今日迄ノ處事変ノ一段落後ハ表面差シタル異状ナシ

二四二 十二月十四日 在漢口瀕川總領事ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

中國官憲ヨリノ漢口日本租界内革命黨員引渡

請求ニ閔シ請訓ノ件

第一三一号

往電第一三〇号ニ閔シ交渉員ハ十二月十四日本官ニ語リテ

曰ク先日ノ北京電報ハ事実ト認ムヘキ証跡歴然タルヲ以テ
詹大悲等必ス日本租界内ノ何處カニ潜伏シ居ルモノト疑フ
ヘキ点アルガ故ニ租界内ノ旅店及其他支那人ノ住宅等ヲモ
十分ニ捜査セラレンコトヲ希望スト本官ハ支那官憲ニ対ス
ル好意上之ヲ承諾シ置ケリ聞ク所ニ拵レハ十二月十二日ノ
夜革命黨員ガ漢陽ニ在ル北洋第二師団ノ兵ト聯絡シテ同所
ノ兵工廠ヲ攻撃セントスル計画ヲ為シ居タルコト暴露シ三
名ノ党員即時縛ニ就キタリトノコトナレバ右等ノ事情ヨリ

二四四 十二月十五日 西川関東都督府陸軍參謀長ヨリ
弊原外務次官宛

上海動乱ノ南満洲ニ及ホセル影響及南満洲ニ

於ケル革命党ノ動静ニ閔スル報告書送付ノ件

附屬書 右報告書

陸部 參謀第二三一号

（十二月二十日接受）

特号送付ノ件

大正四年十二月十五日

関東都督府陸軍參謀長 西川虎次郎（印）

外務次官 幣原喜重郎殿

別冊特第一九号為参考及送付候也

（附屬書）

上海動乱ノ南満洲ニ及ホセル影響及南満洲ニ

於ケル革命党ノ動静ニ閔スル報告書

秘 特第一九号

大正四年十二月十五日 関東都督府陸軍參謀部

目 次

一 上海動乱ノ南満洲ニ及ホセル影響
二 南満洲ニ於ケル革命党ノ動静

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二四四

ト察セラル本官ハ支那官憲ニ向ヒ詹大悲等ヲ捜シ出シタル場合如何ニ之ヲ措置スルカニ就テハ何等言明スル所ナシト雖斯ノ如キ危険人物カ果シテ我租界内ニ居住セルモノトスル時ハ両国ノ關係上甚々面白カラサル義ニ付何トカ相当ノ手段ヲ講セサルヘカラスト信スルモ右ハ如何取計可然ヤ本官ノ心得迄ニ何分ノ儀予メ御訓示アランコトヲ請フ

在支公使ヘ転電済ミ

二四三 十二月十五日 在漢口瀕川總領事宛（電報）

漢口日本租界内ニ革命黨員ヲ發見シタル場合

ノ処置回訓ノ件

第四四号

貴電第一三一号ニ閔シ貴官ハ詹大悲等ノ所在ヲ捜索シ若シ日本租界内ニ於テ彼等ヲ發見シタルトキハ直ニ租界外ニ追放セラルルヤウ取計ハルヘシ而シテ右追放後其事實及追放ノ為メ貴官ノ執ラレタル手段ノ概要ヲ支那官憲ニ内告セラルルヤウ致シタシ

本電報ヲ北京ニ転電アレ

事ニ対シテハ電報ヲ以テ報道スル處アリシ外支那人經營ノ在省城漢字新聞紙上ニモ亦其ノ登載方ヲ命令シ以テ人心ノ鎮撫ヲ図リ尚從来ヨリモ一層軍警ヲシテ省城内外ヲ嚴重ニ警戒セシメ実弾ヲ増給シ殊ニ上將軍行署警衛隊ノ如キハ夜間戰事武装ヲ整ヘ公務以外軍人ノ外出ヲ禁止シ各所ニ密偵ヲ派遣シテ軍人ノ動静其ノ他地方ノ状況ヲ查警戒セシメ又各客棧、料理店、飲食店、遊廓等ニモ密偵ヲ入込マシメ厳密ニ観察セシメ且正業ナキ日本人ノ動静ヲ間接ニ観察シ注意セシムル等苦心慘憺タルモノアリ叙上警察庁長ノ告示アリシニ拘ハラス市民ノ多クハ之ヲ以テ信憑スルニ足ラスト為シ邦人ニ就キ事實ノ真相ヲ確メントスル者尠ナカラズ殊ニ在奉天邦人經營ノ諸新聞上ニハ当初革命党ノ勢力甚タ旺盛ニシテ江南機器局ハ既ニ黨員ノ占領ニ帰シ南方ノ形勢今ヤ頗ル危殆ニ瀕セルモノノ如ク連載シタルヲ以テ民心稍々不安ノ状態ヲ呈シ官憲ノ頻リニ出ス布告モ其ノ効ナク例ニ依リ各種謡言蜚語坊間ニ流布セシカ九日以来革命党ノ敗竄ト占領軍艦ノ擊沈等新聞紙上ニ発表セラルニ及ヒ人心漸ク鎮靜セリ從テ商取引上ニハ何等ノ影響ヲ蒙ラサリシ然レトモ各階級支那人ヲ通シ革命ハ單ニ該一小事變ニ止マラ

船ニ近ツキ突然登船手ニ短銃爆弾ヲ携ヘテ恫嚇シ該船ノ搶劫ヲ企テタルモ岸上ニ軍警周密ニ配置セラレ且同船著場ニ兵船數隻アリシヲ以テ直ニ派遣匪徒便乗ノ小汽船ヲ拿獲シ擾争直ニ平定シ地方安静ニ帰セシモ遠聞錯誤生シ易キヲ以テ特ニ茲ニ電聞ス云々

本署ニ到達セシニヨリ貴府ニ転送ス請フ速ニ商民一般ニ示知シテ誤聞ヲ免レシメヨ云々依テ茲ニ旨ヲ奉シ刊行告示以テ一般民商等ニ知悉セシム爾等此意ヲ体シ切ニ謡言ヲ聞テ惑乱スル勿レ茲ニ特ニ告示ス

　　府長　宋文郁

十二月八日段將軍ノ告示訳文左ノ如シ

鎮安上將軍督理奉天軍務兼節制吉林黑龍江軍務兼署奉天

巡按使段布告

本年十一月十四日政事堂ノ訓電ヲ奉セリ謂ク近頃各処ノ報告ニ依レハ孫文黃興ノ徒謠言ヲ捏造シ巧ミニ邪説ヲ構ヘ冊子ヲ印刷シテ海外ヨリ潛カニ内地ニ送り以テ良民ヲ煽惑シ擾亂ヲ醸サント企圖シツツアリ請フ嚴重警査アラムコトヲ云々惟フニ辛亥革命以後廣東、湖南、江西、安徽、江蘇、福建等ノ各省ハ全ク乱党ノ勢力範囲内ニ属シ

ス之ヲ導火線トシ今後続々各地ニ發生スルニ至ルヘキヲ憂慮シ居レルヲ以テ今後中、南支方面ノ情況更ニ急変スルニ於テハ省城ノ人心モ亦再ヒ動搖シ目下影響ナキ商取引ノ如キモ何時手控ヘヲ見ルニ至ルヤモ保シ難シ段將軍及其ノ他官憲ノ人々ハ表面平静ヲ装ヒ今回ノ上海事變ヲ以テ敢テ小事ト為シ現下革命党員ナルモノ微力ニシテ到底大事ヲ為シ能ハサルヲ説キツアリト雖衷心ニ於テハ或ハ斯ノ如キ事変ノ頻繁ニヨリテ人心ニ変調ヲ呈シ為ニ切ニ熱望シアル帝政ノ前途ニ障礙ヲ來サンコトヲ憂慮シアルモノノ如シ而シテ段將軍ハ今回ノ南支動乱ニ就テハ裏面ニ於テ日本人ノ後援与テ力アルモノト信シ内心頗ル苦思焦慮セル模様アリト云フ

附録

十二月六日奉天警察庁長ノ布告訳文左ノ如シ

奉天警察庁布告

北京統率弁事處ヨリノ六日ノ電訓ナリトテ段巡按使ヨリ

本庁ニ対シ左ノ訓諭アリタリ

本月五日午後五時過上海ニ匪徒數十人起リ租界小汽船ヲ雇ヒ之ニ便乗シテ船著場ニ至リ折柄碇泊中ナリシ小練習

名ハ共和ニ託シテ其ノ実ハ貪逆ヲ恣ニシ其ノ挙動詐偽ナラサルハナシ即チ紳商ヲ偽瞞シ良民ヲ慘殺シ平等自由ノ學説ヲ曲解シテ公妻公産ノ妄談ヲ敢テ説キ是非ヲ顛倒シ妄書ヲ作リ衆ヲ惑乱ス蓋シ其ノ志ハ道徳ヲ淪喪シ綱紀ヲ放棄シ人倫ヲ滅絶シ風化ヲ敗壞シ赤県神州ヲシテ暴民土匪ノ世界タラシメントスルニ在リ依テ政府ハ稍々制抑ヲ加ヘタリ然ルニ彼等ハ六省ヲ聯合シ兵ヲ擁シテ命ニ抗セシヲ以テ即チ將ヲ遣ハシテコレヲ平定セリサレト彼等乱党等ハ嗣テ紙幣ヲ發行シテ現金ヲ吸集シ外国ニ逃走セリ而シテ附隨者ハ身ヲ傷シ命ヲ害セリ尋常盜賊モ尚其ノ群ヲ愛シテ生死ヲ共ニスコレヲ乱党ノ已ヲ利シ人ニ禍スルニ比スレハ同日ノ論ニ非サルナリ其ノ後彼等乱党ハ白狼ト勾結シ數省ヲ擾乱シ姦焚掠奪殘忍ノ行為舉ケテ數フヘカラス寔ニ痛心ノ至ナリ而シテ海外ニ在ル華僑等ハ其ノ艱難辛苦ノ結果獲ル所ノ鎰銖ハ該華僑等ニ取りテハ實ニ汗血ニ価スヘキニ彼等乱党等ハ該華僑等ノ祖国ト遠隔ナルヲ利シ巧ミニ其ノ資財ヲ騙詐シ以テ匪徒ヲ買収シ擾乱ヲ企圖シ且故ラニ在外華僑ノ耳目ヲ偽リ居レリ此等事項ハ由來久シク実行シ來リシ處ニシテ該僑民モ漸ク其詐謀

ナルヲ看破シ出資セサルニ至リシカ該乱党等ハ更ニ某処ニ於テ既ニ集款數百万金アリ某ハ既ニ貸款數百万ヲ約セリ其処ニ於テ既ニ軍器千万件ヲ準備セリ等ト誠ニ其ノ影モナキ事件ヲ捏造偽称シ大言壯語以テ其ノ党徒ヲ惑ハシ其ノ声ヲ張リ古ヲ説キ今ヲ語リ以テ衆民ヲ惑ハス夫レ如此誕妄ノ流言ヲ放チテ而シテ能ク事ヲ成セル者何地ニカ之アラム次テ民国二年湖廣擾亂ノ時ニ当リテ政府ノ財政困乏其ノ極ニ達シ軍隊亦各省ニ紛乱シ其ノ秩序未タ全ク恢復セス而シテ乱党ハ六省二十余万ノ衆ヲ擁シ利器足リ糧亦豊カニ毒餌天ヲ燻シ党羽海内ニ遍カリシモ五旬ナラシテ遂ニ冰銷瓦解スルニ至レリ然ルニ今日ノ如キ百余ノ通冠謠言ヲ造リテ以テ国家ヲ傾覆セント企ツ今日ノ如キ政府財政豊カニ規成リ軍隊亦整頓シ各省長官軍官均シク大義分ヲ明カニシ國家ノ干城ヲ以テ任スルノ時ニ当リ少數ノ乱党孰ンソ能ク大局ヲ動カサンヤ唯最モ憫念ニ堪ヘサルハ青年ノ知識單簡貧民ハ矇昧ニシテ利ヲ図リテ身ヲ忘レ欺カレテ誤テ迷途ニ入り遂ニ法網ニ触ルルニアルヲ恐ル即チ彼等乱党等ハ民權ヲ称述シテ良善ヲ惑乱シ鬼域ノ謀ヲ籌ラシテ名ヲ美ニ借リ乱ヲ發シテ以テ其ノ私ヲ

利シ國ノ憂難ニ乘シテ覆滅ノ先導ヲナセリ且乱党等ハ財ヲ貪リ命ヲ惜ミ身ヲ潜匿スルニ巧ミニシテ他人ノ生命ヲ犠牲トシテ敢テコレヲ顧惜セス險惡ノ事実歴々徵スヘキナリ予ハ愛仁ヲ以テ心トナシ苦言ヲ憚ラス誥誠ヲ受ケテ以テ我カ黎民ヲ保ツ故ニ乱党ニ附和セシ者モ悔悟ノ情ヲ以テ自首スルアラハ立チ所ニ赦免ヲ与ヘ都テ旧ヲ洗ヒ新生涯ニ入ラシメ災ヲ転シテ福ヲ享ケシムヘシ依テ各省將軍巡按使等ニ通飭シテ懇切ニ曉諭セシムヘシ凡ソ我カ人民ハ皆均シク家アリ父母妻子拠テ以テ命ト賴ム所ナレハ切ニ誤テ蜚語謠言ヲ聞キ邪僻ニ流レテ重典ニ刑セラルルヲ避ケサルヘカラス若シ一朝此淵ニ陥ルトキニ於テハ追悔既ニ遲カルヘシ故ニ各自安居其ノ業ヲ樂ミ身ヲ保チ家ヲ豊カニスルコトニ努ムヘシ茲ニ再言ス乱党ノ散布スル冊子ニ惑フナク且寄贈等ヲ嚴禁シ若シ散布スル者アラハ直ニ燒棄シ以テ乱萌ヲ根絶スヘシ依テ速ニ各県各學校等ニ貼示以テ衆ヲシテ広ク之ヲ知ラシムヘシ茲ニ錄シテ以テ曉諭ス

二、南滿州ニ於ケル革命党ノ動靜

南滿州ニ於ケル支那革命党ハ本拠ヲ大連ニ置キ寧夢岩、孫

祥夫等其ノ牛耳ヲ取リ孫文黃興等ト氣脈ヲ通シ終始蠢動セルカ如シト雖素ヨリ大事ヲ此地ニ挙クヘシト思惟スルヲ得ス畢竟彼等同志ノ恋々トシテ大連ノ地ニ蟠居スル所以ハ他ナシ支那官憲ノ威圧ヲ免レ日本、山東、上海等ト交通至便ノ位置ニ在リ且滿洲奥地乃至蒙古方面ノ草賊匪徒ヲ糾合スルニ適シ真ニ形勝ヲ占ムレハナリ而シテ南滿革命党員中ニハ自ラ宗社党ヲ標榜スルモノ及獐猛ナル所謂熱血團ニ属スルモノアリト風説セラルルモ俄ニ信ヲ措キ難ク馬賊ノ鋒々タル頭目黃四懶王、兔子閻王、天下好等ハ既ニ革命党ニ氣脈ヲ通セリト唱道セラルルモ是亦虛説ナリト推定スルヲ正当トスルカ如シ

袁世凱帝制ヲ提唱シ殊ニ四國勸告ノ事アリシ以来南滿洲ニ於ケル革命党員ノ來往漸ク頻繁トナレリトノ風説熾ニ唱道セラレ何等カ籌策スル所アルカ如ク觀測セラレシカ尹威ナル者三十数名ノ壯丁ヲ率ヒ十二月三日大連ヲ發シテ上海ニ渡航セリ而シテ彼等ノ企圖ハ南支那ニ於ケル第三次革命乱ニ投スルニアリシカ如シト雖十二月五日夕ニ於ケル上海革命動乱ニハ参加スルヲ得サリシナラン叙上ノ事実ニ徵スルニ上海ニ於ケル今次ノ動乱ハ決シテ偶發的ノモノニアラス

ケル革命党員來往ノ如キモ多少事実トシテ諜知セル件ナキニシモアラサルモ道路ノ風説スル如ク頻繁ナルニアラス多クハ虛構ナリトス吾人ノ支那ニ莅ムヤ須ラク眉ニ睡スヘキナリ

本書發送先

參謀次長、陸軍次官、外務次官、支那公使館附武官、支那駐屯軍司令官、朝鮮總督附武官、朝鮮駐劄軍參謀長、朝鮮駐劄憲兵隊司令官、南滿洲鐵道株式會社總裁、關東都督府

民政長官、閩東憲兵隊長、獨立守備隊司令官、第十七師団參謀長、中支那派遣隊司令官、青島守備軍參謀長、北京公使、奉天總領事、吉林領事、長春領事、鐵嶺領事、遼陽領事、牛莊領事、安東領事

二四五 十二月十六日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛

上海動乱失敗ノ事情、日本人ガ関係セルガ如ヰ
風説、袁皇帝ニ対スル祝賀ノ模様等報告ノ件

機密第一〇一号
(十二月二十三日接受)

大正四年十二月十六日

在上海

總領事 有 吉 明(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

客月廿六日機密第九四号報告後本月五日午後六時半頃ヨリ予テ陳其美一派ノ計画ニ係ル江南製造局襲撃事件發生スルアリ右情況及内情ノ概要ハ當時其都度電報致置尚ホ是カ詳報ハ本月十三日附機密第一〇〇号ヲ以テ報告致置候次第二有之要スルニ今次ノ舉ハ陳其美及其一派カ軍艦肇和及応瑞二隻中ニ若干ノ内応者アルヲ唯一ノ賴ミト為シ第二次革命

如ク甚敷無謀ノ沙汰トモ称シ得サルヘク其多少ノ確信ヲ有シ居タル事モ亦無理ナラストセス漢字新聞ノ一二カ如斯ハ常住不断人民ヲシテ極メテ危惧ノ念ヲ懷カシムル所以ノモノナリトナセルモノノ蓋シ當國ノ実態ヲ指摘セルモノト相認メ候

爾來製造局ハ勿論城ノ内外其他ノ警戒ハ極メテ嚴重ナル事別信報告ノ如キモ之ニ接続スル仏租界ニ於テハ租界自体ノ秩序維持ノ都合上等ヨリ依然革命一派ニ対シ好意的中立ノ態度ヲ改メス從テ所謂乱徒ノ同租界ニ潜匿セルモノ少ナカラス彼等ハ尚ホ引続キ何事カヲ計画シツツアルハ事實ナルモ其前途ハ甚タ茫漠タルカ如ク彼等一派ハ其氣勢ヲ張ランカ為メ若クハ他ヲ誘引スルニ便ナラシムル為メ各方面トノ聯絡等兎角大袈裟ナル吹聴ヲ為ス傾向アリ其所說ハ元ヨリ十分ノ割引ヲ以テ聞クノ必要アルヘク同時ニ官憲側ノ誇示スル勢威ニ至ツテモ從来ノ事蹟ニ見テ又同様ノ手心ヲ要スルモノアルカ如ク前途甚タ不安ナルハ勿論ナカラ唯袁總統ノ權威ニ大ナル失墮ヲ來スノ因ナキ限り人心和平ヲ望ムニ切ナル結果革命党单独ノ力ニテハ差当リ當地方ニテハ大ナル騷擾ヲ見ル事ナカルヘキカ如シ

当時自己ノ嘗メタル苦痛ナル経験ニ徴シテ軍艦ヨリノ発砲ハ容易ニ製造局内ノ軍艦ヲ壊乱セシメ一挙ニ成功ヲ期シ得ヘシト打算シ陸上ニ於ケル諸準備十分ナラサルニ係ハラス多大ノ確信ヲ以テ事ヲ起シタルモノト認メラレ軍艦ノ内応ハ客月以来其一部ニ於テ甚タ誇大ニ考ヘラレ居タル事実ニ顧ミ彼等カ如何ニ重キヲ之ニ措キツツアリシヤヲ察スヘク然モ之カ無残ナル失敗ヲ見ルニ至リタルモノハ革命党側ノ称スル所ノ如ク實行上各種ノ手違ヒアリタル事モ其一因ナルヘキモ軍艦ニノミ重キヲ置キ其他各種ノ準備全ク之レナカリシ事其主要ノ原因ト見ルヘク軍艦肇和ノ内応者ニ至ツテモ其或者ハ熱烈ニ革命党ニ同情セルモノナリト称シ居ルモ其大部若クハ一部ハ五萬元ノ報酬ノ約ニ依リテ加担セルノ事実ラシキニ見テ其程度モ略ホ推察スルニ難カラス然モ他方支那官憲側ノ伝フル所ヲ仮リニ事実トスルモ當國ニ於ケル最モ新式ノ軍艦カ數十名ノ革命党ニ襲ハレ強制セラレテ直ニ官軍ヲ砲撃スルニ至レルノ事実ハ政府側ノ所謂治安維持ナルモノノ甚敷貧弱ナルヲ更ニ明白ニ証拠立テタルモノトスヘク從テ陳其美等カ僅少ノ内応者ヲ賴リニ格別ノ準備モナク輕々事ヲ起シタル事実モ吾人カ他ヨリ想像スルカ

不謹慎ノ事ナキ様取計ハシメ尚ホ是カ挙動ヲ警戒セシメタル上警察署長ニハ小官面談ノ上一応サリゲナク弁解致置候處署長モ格別大ナル疑念モ挾マス篤ト之ヲ諒シ居リ候模様ニ有之尚ホ山田ハ十六日出帆八幡丸ニテ当分帰朝ノ予定ニ申居候事情如此ニシテ此種ノ風説乃至記事ハ之ヲ弁駁スルカ如キハ却テ各方面ニ一層猜忌ヲ増シ又ハ風説ヲ大ナラシムルノ恐レモ有之暫ク此儘看過致置候事得策ト相認メ唯支那官憲等ニ対シテ機会アル毎ニ誤解無之様説明スルニ相止メ置候

右動乱発生ニ引続キ十三日ニハ袁大總統皇帝承認ノ報道ノ伝ハルアリ楊護軍使ハ当日ヨリ国旗及提燈ヲ掲ケテ祝意ヲ表ス可キ様令達セル旨新聞紙上ニ伝ヘラルモ居留地内ニアリテハ道尹公署等ノ官衙及政府關係ノ会社銀行等ノ外国旗ヲ掲クルモノ極メテ少ナキ情況ニシテ第一次革命當時各戸直ニ白旗ヲ掲ケタルニ比シ大ナル逕庭ヲ見商縦会ノ如キモ冷淡ナル態度ヲ持シ寧ロ反感ヲ有シ居レル模様ナルモ時勢ノ変転ニ適応スルニ妙ナル彼等ノ性質トテ時ヲ経ルニ從ヒテ或ハ表面帝制ヲ謳歌スルノ時期モ可有之新聞紙ニ至ツテハ亞細亞日報カ赤摺リヲ用ヒ瑞祥的文句ヲ使用シテ祝意

ヲ表シ神州日報カ又之ニ附和シ中華新報カ極端ナル反対ヲ表セル外他紙ハ依然トシテ冷静ノ態度ヲ持シ居レルモノト称スヘク然シテ官憲側ニアリテハ昨十五日午前九時楊護軍使ハ製造局ニ於テ朝覲ノ礼ヲ行ヒ帝國万歳ヲ三呼シ道尹公署モ亦袁大總統ノ肖像ヲ掲ケテ中華帝國万歳ト記シ道尹ヲ始メ上海県知事等之ニ礼拝シテ皇帝万歳ヲ唱ヘ夜ハ祝宴ヲ催シタリトノ事ニ有之要スルニ差当リ一般ノ人気ハ極メテ冷淡ニ変遷ヲ看過シツツアリト認メラル
右御参考迄報告申進候 敬具

本信写送付先 北京公使

二四六 十二月二十一日 在中国日置公使ヨリ 石井外務大臣宛

袁世凱馮國璋ノ態度ヲ警戒シ居ル狀況ニ關
スル參政院參政李盛鐸ノ内話報告ノ件
機密第三八六号 (十一月二十八日接受)

大正四年十二月廿一日

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

過日船津書記官李盛鐸ニ面会ノ際同人ハ馮國璋ノ態度等ニ關シ大要左ノ通り内話シタル趣ニ付何等御参考迄及報告候也

最初二三地方大官カ突然前清時代ト同様ノ上奏文体ヲ用フルヤ政事堂ニテハ国体未タ変更セサルニ上奏文ヲ用フルハ不都合ナリ今後注意スヘキ旨ノ命令ヲ發セシニ某官ハ各地方官カ上奏文体ヲ用フルニ至リシハ全ク其筋ノ内意ニ基モクノナリ現ニ大元帥統率弁事処ヨリ各省將軍ニ今後上奏文体ヲ用フヘキ旨秘密指令ヲ發シタルニ付右ノ如キ政事堂ノ指令ハ之ヲ撤回スル方宜シカラント注意セシニ依リ政事堂ニテハ統率弁事処ヨリ此ノ如キ指令ヲ發セシトスルモ右ハ同処カ勝手ニ發シタル違式ノ指令ナルヘシ兎ニ角弁事処ノ發シタル指令ノ原稿ヲ一見スヘシトテ之ヲ取寄セ見タル處安ソ知ラン右指令ノ原稿ニハ大總統ノ親筆ニテ「閱」ノ字アリ明カニ大總統カ已ニ承知シ居ルコト分リタルヲ以テ政事堂ハ不得已一旦發シタル指令ヲ急遽取消シタル由然ルニ馮國璋ハ上奏文ヲ用フルコトヲ肯ンセサルヨリ(袁ノ考ニテハ可成著名有力ナル大官ヲシテ率先上奏文ヲ用ヒシメント欲セシモノノ如シ)

齊巡按使ハ其筋ノ内命ニ依リ親シク馮ニ面シ説ク所アリシモ馮ハ未タ納得セサル由ナリ隨テ中央ハ馮ニ対シ稍警戒スル所アルモノノ如シ今回第十師師長盧永祥ヲ淞滬護軍副使ニ任命シ其全軍ヲ提ケテ(其一部分ハ既ニ江蘇方面ニ配置シタリ)南下セシムルコトナリタルハ上海カ革命党ノ策源地ナルヲ以テ之ニ備フル必要ニ出テシナラシモ或ハ一面馮ニ対スル警戒ノ意味ヲ含ミ居ルニ非セヤト云フモノアリ約十日許リ前ノコトナリトテ信スヘキ筋ヨリ漏レ聞ク所ニ拠レハ大元帥統率弁事処ハ馮ニ対シ張勲ノ心事疑ハシキヲ以テ充分警戒ヲ加フヘキ旨秘密訓令ヲ發シ同時ニ張ニ向テモ馮カ油断シ難キヲ述ヘ相当警戒ヲ加フル様内訓シタル處馮張兩人ハ或ル機会ニ於テ偶然右内訓ヲ感知シ相互通シタルヲ以テ目下馮張兩人ハ中央政府ニ対シ益不快ノ念ヲ強メ居ル由此ノ如キ失錯ヲ演シタルハ中央当局カ南方ニ於ケル馮張ニ閔スル種々ノ謠言ニ迷ハサレタル結果ナラン又最近安徽將軍倪嗣冲ノ軍隊ヲ南京徐州(徐州ハ張勲ノ駐屯地)ノ中間駅タル蚌埠ニ移駐セシメ南北通路ノ咽喉ヲ扼スル如キ挙ニ出テタルハ或ハ此辺ノ關係ヨリ生シタル結果ナラン欵云々

一 袁世凱帝制計画二閔スル件 附 二四七 二四八 二四九

二三二

二四七 十二月二十二日 在香港今井總領事ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

広東ニ於テ近ク騷乱発生ノ見込ナル旨ノ情報

二付 報告ノ件

第七九号

一ヶ月前ヨリ当地ニ創立セル革命党機關新聞「ゲンゾウシホウ」記者ノ内報ニ拠レハ革命党員三名ハ当港西端ニ一家ヲ借り受ケ南洋ヨリ得タル資金ヲ以テ盛シニ広東軍隊ヲ買収シツツアルニ付近キ将来ニ於テ同地ニ一騷動アルヘキヲ期待シ居レリト仍テ本官ハ之ヲ胡漢民ノ腹心ナル「チヨウ、カク、レイ」ニ聞訊シタルニ右ハ確カニ事実ナルモ右革命党員ノ顔振ト資金ノ不十分ナルニ依リ大成功ハ覚束ナキモ兎ニ角近々同地ニ騷乱アルヘキ見込ナリト答ヘタリ御参考迄

在広東總領事ヘ郵報

二四八 十二月二十二日 石井外務大臣ヨリ 在上海有吉總領事宛(電報)

広西將軍陸榮廷ノ独立宣言及前雲南都督蔡鍔ノ雲南独立計画ニ閔スル新聞報道ニ付真偽探

右北京、広東、香港へ又雲南ニ閔スル部分丈重慶へ何レモ訓令トシテ転電アリタシ

二四九 十二月二十二日 石井外務大臣ヨリ 在上海有吉總領事宛(電報)

広西、雲南独立ニ閔スル新聞報道ノ出所等回

報ノ件

第一六四号

公使ヘ転電済ミ

貴電第一四九号ニ閔シ同新電ハ姚文藻カ通信員ニ内話セル所ニ係リ當時姚ハ宗像ニモ同様ノ内報ヲナシ右ハ同地方ヨリ暗号ニテ南京ニ来レル報道ナリトシ馮国璋張勲モ不日事ヲ挙クヘキ旨申居リタル趣ナルモ真偽未タ確ナラス広西雲

南等独立ノコトハ目下主トシテ北京天津ヨリ伝ヘラレ居リ

蔡鍔カ雲南ニ向ヒ昨今到著ノ頃ナルコトハ確ナルモ其他ノ事実ハ尚何レノ方面ニモ確報ナシ

二五〇 十二月二十二日 石井外務大臣ヨリ 在香港今井總領事宛(電報)

広西、雲南独立ニ閔スル新聞報道ノ真偽ニ付

回報ノ件

第八〇号

在上海總領事宛貴電第一四九号ニ閔シ当地三井物産ガ取引先ノ支那人ヲ經ナル筋ヨリシテ聞ク所ニ依レハ蔡鍔ハ十日程前当地ヨリ雲南ニ赴キタリ又岑春煊ハ雲南界ヲ經テ既ニ広西ニ入込ミ居レリ

右情報供給者ノ姓名ハ三井ニテハ態ト将来ヲ慮カリ聞紀シ居ラサルモ從來ノ關係ニ鑑ミ確実ナルモノト信シ居レリ但シ陸榮廷ノ独立宣言ハ當地ニテハ今日迄未ダ聞込マズ

二五一 十二月二十三日 石井外務大臣ヨリ 在中國日置公使(電報)

雲南將軍唐繼堯等國体変更ニ反対ノ旨中央政府ヘ電報シタリトノ風説及蔡鍔ノ雲南入りニ

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二五〇 二五一

第一四九号

索方訓令ノ件

二三三

十二月二十日上海發新聞電報ハ廣西將軍陸榮廷部下ノ帝制反対ニ余儀ナクセラレテ十九日独立ヲ宣言セル旨又右電報及二十一日北京發新聞電報ハ前雲南都督蔡鍔雲南独立ヲ計画シ居ル旨ヲ報シ居ル處右報道ノ真偽及情況探索ノ上電報アリタシ

右北京、広東、香港へ又雲南ニ閔スル部分丈重慶へ何レモ訓令トシテ転電アリタシ

二四九 十二月二十二日 石井外務大臣ヨリ 在上海有吉總領事宛(電報)

広西、雲南独立ニ閔スル新聞報道ノ出所等回

報ノ件

第一六四号

公使ヘ転電済ミ

貴電第一四九号ニ閔シ同新電ハ姚文藻カ通信員ニ内話セル所ニ係リ當時姚ハ宗像ニモ同様ノ内報ヲナシ右ハ同地方ヨリ暗号ニテ南京ニ来レル報道ナリトシ馮国璋張勲モ不日事ヲ挙クヘキ旨申居リタル趣ナルモ真偽未タ確ナラス広西雲

南等独立ノコトハ目下主トシテ北京天津ヨリ伝ヘラレ居リ

蔡鍔カ雲南ニ向ヒ昨今到著ノ頃ナルコトハ確ナルモ其他ノ事実ハ尚何レノ方面ニモ確報ナシ

二五〇 十二月二十二日 石井外務大臣ヨリ 在香港今井總領事宛(電報)

広西、雲南独立ニ閔スル新聞報道ノ真偽ニ付

回報ノ件

第八〇号

雲南將軍唐繼堯同巡按使任可澄ハ今回ノ國体変更ハ真正ノ民意ニアラサルヲ以テ之ヲ中止シ孫毓筠楊度ノ如キハ相当ノ処罰ヲ加ヘラレタキ旨ノ電報ヲ中央政府ヘ向ケ発送シタリトノ風説アル趣十二月二十日北京「ガゼット」ニ掲載サ

レタルニ付探訪ヲ遂ケタル處右ニ類スル電報カ其ノ筋ニ達シタルハ事実ナルモ右ハ果シテ將軍巡按使ヨリ発シタルモノナルカ或ハ何者カ其ノ名ヲ仮リテナシタルモノナルカ其ノ辺ノ事情詳カラサルモ同時ニ蔡鍔カ十二月五日香港ヲ經テ雲南ニ赴キタリトノ風説アリ之ニ閔シテハ當地仏國公使館ヨリ雲南蒙自駐在同國領事ニ打電問合セタル處蔡ノ雲南ニ入リシハ事実ナル由而シテ蔡ハ元来唐ト密接ナル關係ヲ有シ且雲南ニハ蔡ノ旧部下モ少ナカラサルヲ以テ或ハ何等力画策ノ目的ヲ以テ同地ニ赴キタルニアラスヤトモ想像サレ中央政府ニテハ多少不安ノ念ニ駆ラレタルモノノ如シ

今回突然各省將軍巡按使ニ爵位ヲ与ヘタル中ニ龍濟光、張勲、馮國璋等ヲ公爵ニ陸榮廷唐繼堯等ヲ侯爵ニ封シタル如キ全ク邊境ニ於ケル各省將軍ノ欲心ヲ買ヒ以テ中央ニ反抗

二三三

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二五一

二三四

セサラシメントノ趣旨ニ出タルモノナラント云フモノ多シ
右雲南方面ニ閔スル報道ハ事實ナルヤ否ヤ明カラサルモ
当方面ニモ専ラスクノ如キ風説アルコト丈ハ時節柄一忘貴
聞ニ達シ置キタシ

廣東香港上海へ転電済

二五二 十二月二十三日 在上海有吉總領事ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

袁ノ帝制ニ不満ナル參政院副院長汪大燮、馮國璋、梁啓超等ノ挙措ニ閔スル汪ノ談話日置

公使ヨリ報告ノ件

第一六六号

公使發

等七一六号

十二月二十二日參政院副院長汪大燮カ小田切ニ特ニ會見ヲ
求メ極内密ニ左ノ如ク談話シタル由小田切ヨリ内報アリタ
リ時節柄参考トナルヘキモノト認ムルニ付其大要ヲ電報ス
帝制ノ實行セラレ袁ノ帝位ニ登ランツルニ對シテハ衷心
不快ノ念ヲ懷ク者尠ナカラス自分等モ其一人ナルヲ以テ速
カニ官ヲ罷メ引退シタキ考ナルモ目下ノ所辭職スルモ到底

リ居レルハ鄭汝成暗殺者ニシテ処刑ヲ受ケタルハ真ノ下手
人ニアラスシテ替玉ナリシコトノ一事ナリ之ハ袁側ノ細工
ナルカ馮国璋側ノ仕事ナルカ不可解ナル奇怪ノ事柄ニシテ
自分等仲間ノ疑問トナリ居レリ云々

二五三 十二月二十三日 在上海有吉總領事ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

雲南不穏ノ情報ニ閔シ日置公使ヨリ報告ノ件

第一六八号

公使發

第七一七号

雲南方面不穏ノ情報ニ閔シ楊士琦ハ小田切ニ對シ其來歴ヲ
説明シ從来雲南所在ノ軍隊ニ對スル給料ハ他省ノモノニ比
シ低額ナリシヲ以テ常ニ此点ニ閔シ不平勝ナリシカ最近復
又之カ原因ニテ不平ヲ醸シ多少動搖ノ徵アリタル事ハ事實
ナルモ急ニ中央政府ヨリ給料増額ヲ決行シ必要ノ金額ハ既
ニ同地ヘ送金セラレタルヲ以テ無事鎮靜シタル次第ナリト
内話シタル由ナリ之ヲ要スルニ雲南不穏ニ閔スル情報ノ内
容モ其説区々ニシテ一致セス今尚真相詳カナラス十分内探
ノ上其事實ヲ明カニシタキ積ナルモ右楊士琦所説ノ如ク同

許可セラレス已ムヲ得サルニ付此儘無断ニテ此地ヲ去リ上
海ニ密行シ同地ヨリ辭表ヲ提出シ夫ヨリ日本若ハ青島又ハ
大連ニ免レ身ヲ置キタキ考ナリ就テハ上海其他ノ正金支店
ニテ自分ノ旅行其他ニ対シ十分ノ便宜ヲ与ヘラル様願ヒ
タク將又上海等ヨリ北京ノ同志へ宛ツル書信モ日本郵便ニ
依リ當地正金支店へ送付スルニ付其場合ニハ可然配慮ヲ願
ヒタシ雲南方面動搖ノ情報ハ事實ナルヘシト信セラル
馮国璋湯郷銘等ハ目下表面他意ナキカ如ク装ヒ居ルモ其舉
進頗ル計リ知ルヘカラス何ノ方面ニ於テカ異變起ラハ馮湯
以下ノ諸将ニシテ袁ノ態度ニ平カナラサル連中カ反抗ノ旗
ヲ挙クルノ虞ナキニアラススクナレハ西南諸將ハ響應シテ
起ツヘク或ハ終ニ南北分裂ノ形勢ヲ現出セストモ限ラレサ
ルヘク之レ自分等同志ノ深ク憂患ニ堪ヘサル所ナリ曩ニ表
面帝制ニ反対シタル連中中梁啓超最モ早ク其踪跡ヲ暗マシ
目下同人ハ多分日本ニ落延ヒタルラシク其他ニ至リテハ徐
世昌張謇熊希齡湯化龍等何レモ嚴重ナル監視ノ下ニ殆ト身
動キモナラサル境遇ニアリ就中一身ノ進退ニ付兩難ノ極ニ
煩悶シ居ルハ黎元洪ニシテ自分ハ密ニ同人カ異変ニ遭遇ス
ルコトナキヤラ心配シ居レリ尚自分等同志者間ニ疑問トナ

人力幾分動搖ノアリシ事ヲ認ムルニ依リ見ルモ何事カノア
リシハ事實ナラント察セラル
廣東へ転電セリ

二五四 十二月二十三日 在中國日置公使ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

日本ガ上海暴動ニ関係アリトノ紐育極東局発

第七一八号

貴電第六七〇号訓電ノ趣旨過日外交部ニ申入レ置キタル處

同部ニ於テハ絶対ニ極東局ナルモノト支那政府トノ關係ヲ
否認シ又同政府ハ此種ノ材料ヲ供給シ新聞等ニ發表セシメ
タルコトモナシト言明シ尚在紐育同國領事ニ電訓シ極東局
トノ關係ノ有無ヲ問合ハシタル結果右ハ「ゼンクス」「ガ
ラガーネ」等主管ノ下ニ一二在留ノ支那商人之ヲ補助シ其目的ハ日本人經營ノ通信社様ノモノニテ本年春夏ノ頃在米國
伯林会ヨリ補助金ヲ受ケタルコトアル趣ナルモ領事館筋ト
ハ何等ノ關係モナシトノコトナリ又事實問題トシテハ孫文
ノ委任状五通ハ肇和号乗組士官候補生練可鈞ノ行李中ヨリ
發見セラレ最近北京ニ取寄セ検査ノ結果孫文ノ署名筆跡等

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二五五 二五六

二三六

實物ニ相違ナキモノト認メラレ 鏡器ハ「ピストル」ニシテ
日本製ノモノモアルコトハ事実ナルモ審理ノ結果ハ未タ詳
細ニ報告アラサルヲ以テ確言シ難キモ若シ支那側ヨリ米國
新聞ニ取消ヲナストスルモ右ノ如ク審理ノ結果ニ依リ得タ
ル事實ヲ擧ケテ訂正スル位ノコトシカ出来難ク然ルニ一面
在米日本大使館ヨリ既ニ正式ニ取消シサレタル以上右様ノ
訂正ヲ支那側ヨリ出スモ如何カト考ヘラル旨外交部ヨリ
返答シ來レリ本件ハ最早時日ヲ経過シ居ルノミナラス審理
ニ依リ得タル事實ヲ發表シ訂正セシムルモ却テ面白カラサ
ルヘキニ付之ニテ打切ト致シタシ

二五五 十二月二十三日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

二五六 十二月二十三日 在廣東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

廣西獨立宣言ハ虛報ナル旨及廣東方面ノ状況

報告ノ件

第七九号

在上海總領事宛貴電第一四九号ニ閔シ廣西獨立宣言ハ全然
虛報ナリ陸ハ龍洛光ト何事モ互ニ提携スル約束アリ龍立タ
サレハ陸立タス陸ノ部下亦陸ニ心服シ居レリ
竜ト陸ハ南支那ノ重鎮ナルモ兩人ハ別ニ政事上ノ主義ヲ有
セス勢ニ從テ自己ノ權勢地位ヲ維持セントスルモノニシテ

目下ノ所帝制ニ賛成ス袁ニ附和スルヲ自己ノ利益ナリト信
スル者ナレハ此際帝制反対若クハ反袁運動ニ加担スルカ如
キハ断シテナカルヘシト認ム蔡鍔ノ雲南ニ入りタルハ事實
ナルモ果シテ如何ナル行動ニ出テツツアルヤハ搜査ノ上電
度ニ向ヒツツアルトノコトニテ當地仏國公使館ハ雲南地方
ノ情況ハ必スシモ樂觀ヲ許スヘカラサルモノト觀察シ居ル
モノノ如シ

右上海、廣東總領事へ転電シタリ

二五七 十二月二十四日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

二五八 十二月二十五日 在天津松平總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南省獨立宣言ノ趣總統府ニ公電アリタル件

第六〇号

十二月二十五日巡按使秘書ヨリノ密報ニ依レハ雲南省ニ於
テ愈々独立ヲ宣言シタル趣總統府ニ公電アリタル由ニテ昨
夜大總統ヨリ朱家寶(雲南出身)ニ対シ本件ニ閔シ打合ノ
為至急上京スヘキ旨電報アリタルヲ以テ朱ハ今朝汽車ニテ
上京セル由御参考迄

在支公使ヘ電報セリ

二五九 十二月二十五日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南情勢ニ閔シ同地巡按使ハ中央政府宛長文
電報ヲ發セル旨英國公使來談ノ件

第七二二号

印度支那官憲ヨリ當地仏國公使館ニ達シタル電報ニ依レハ

李烈鈞ハ約一ヶ月前ニ変名ノ旅券ニテ河内ヨリ雲南ニ入り
タル由又雲南駐在同國領事ヨリ十二月三日接手ノ電報ニ依
レハ雲南將軍唐繼堯巡按使任可澄其他重ナル官吏ハ既ニ蔡
鍔ト協同シテ帝制反対ノ運動ヲ開始シ一両日前中央政府ニ
宛テ帝制中止勅告ノ電報ヲ發シ同地方人民亦帝制反対ノ態

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二五七 二五八 二五九

二三七

シツツアル模様ニテ將軍唐繼堯等ハ極力軍隊ノ慰撫ニ努メ
一面中央ヨリモ給料増額ノ沙汰アリ目下ノ所格別ノ動搖ナ
シトノコトナリ町田少将力仮國公使ヨリ承知セル所ニ依レ
ハ同公使モ略ホ同様ノ情報ニ接シ居ル趣ナリ
在上海總領事在廣東總領事へ転電シタリ

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二六〇

二三八

十二月二十五日朝英國公使來談在雲南同國領事ヨリ雲南巡按使ハ中央政府ニ向ケ省内ノ情勢ニ關シ非常ニ長文ノ電報ヲ發セリ其全文ヲ電報スヘキヤト請訓シ來レルニ付要領電報セヨト回訓シ置キタルヲ以テ今夕カ明朝頃著電ノ筈ナリ内話シ尚昨日使ヲ以テ大總統筋ニ付雲南ノ狀況問合セタル處一旦平穩ニ復シタルモ其後又多少異状ヲ呈シ來レル模様アリ併シ政府ハ機宜ノ措置ヲ執リツツアル旨返答シ來リト談話セリ

二六〇 十二月二十五日 在中國日置公使 石井外務大臣宛(ヨリ) 電報

雲南將軍唐繼堯ノ袁世凱ニ對スル帝制反対電 報ニ關シ曹外交次長内話ノ件

第七二三号

雲南不穏ノ情勢ニ關シ曹次長ハ當館員ニ對シ左ノ通内話セリ本件ニ關スル英國公使往電ト対照シ多少参考トナルヘシト考ヘラルニ付電報ス
雲南將軍唐繼堯ハ本月十二日十八日及二十一日都合三回ノ電報ヲ發シ袁總統ニ対シ速ニ帝位ニ上ランコトヲ勸告シ特ニ第二回ノ電報ニハ李烈鈞カ三百余名ノ部隊ヲ率ヒ河口ヨ

ノハ右ニ十三日接手ノ電報ノ事ナラント想像セラル

二六一 十二月二十五日 石井外務大臣 在中國日置公使 大臣野大臣(ヨリ) 在英國井上大使各宛(電報)

袁ノ帝制ニ伴フ中国各地不安情況通報ノ件

第五七三号(露宛)

第三八三号(英宛)

支那國体變更ニ伴フ各地不安ノ情況ニ付テハ往電第二六六号(露ヘハ在英大使宛往電第二六六号)ヲ以テ申進置タル處其後ニ於ケル此種ノ徵象中已電ノ上海暴動等ヲ除キ最重ナルモノ左ノ如シ御参考迄

(一)最近ノ新聞電報ニ依レハ陸廣西將軍ハ十二月十九日独立ヲ宣言シ又前雲南都督蔡鍔ハ雲南獨立ヲ計画シ居ル趣ナリシカ在支公使及關係領事ノ電報ヲ綜合スレハ蔡鍔カ十日程前香港ヨリ雲南ニ向ヒ昨今到着ノ頃ナルコトハ一般ニ確信セラレ居ルモノノ如ク(尤モ蔡鍔ハ日本ニ居ル旨ノ情報モアリ)又雲南將軍及同巡按使ノ名ヲ以テ國体變更ハ真正ノ民意ニアラサルヲ以テ之ヲ中止シ之カ主唱者ヲ处罚セラレ

タキ旨ノ電報中央政府ニ達シタル趣ニテ在支公使館ヘ

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二六一 二六二

リ進入シタルモ直ニ之ヲ撃擣シタルヲ報シ雲南一省ノ治安ハ自ラ將軍タル限リ全責任ヲ以テ之ヲ維持スヘシト誓言シタル上此儘帝制ヲ不定ノ狀況ニ置クノ不得策ナルヲ説キ速ニ帝位ニ即カンコトヲ切言シタルニ拘ラス僅々三日ヲ出テス二十三日到達ノ電報ヲ以テ遽ニ帝制反対ヲ呼号シテ其中多分同將軍カ蔡鍔ノ旧部下タリシ關係ヨリ之ニ説伏セラレ右様ノ電報ヲ發シタルモノナラン或ハ其態度ノ余リニ急変セルヨリ考フレハ將軍ノ意見ニ拘ハラス蔡ノ旧部下タル軍人連カ擅ニ右ノ如キ電報ヲ發シタルモノカトモ想像セラルモ其辺ノ消息尚不明ナリ蔡鍔ハ初メ日本ニ渡リ別府ニテ譚人鳳ト会合シ夫レヨリ香港ヲ經、同志戴戡ト共ニ雲南ニ潜入シタリトノ情報ニ接シ居レリ云々

尚雲南獨立宣布ノ報道ニ付テハ初メ勉メテ之ヲ否認シタルモ當館員ニ於テ之力確報ヲ有シ居ルカ如キ口吻ヲ洩ラシタルニ由リ独立宣布ノ事ハ今尚何等承知シ居ラサルモ二十三日接手ノ電報ノ極メテ劇烈ナルモノナルニ顧ミレハ或ハ右様ノ宣布ヲナシタルヤモ知レスト述へ言葉ヲ濁ラン居リタル由ナリ往電第七二二号ニ英領事ノ所謂長文ノ電報ナルモ

二六二 十二月二十五日 在英國井上大使(ヨリ) 石井外務大臣(電報)

廣東雲南地方動乱ノ兆ニ關スル報道ニ付問合

ノ件

第六三〇号

二三九

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二六三 二六四

二四〇

馮国璋独立ヲ宣言シ張勲又動カントナシ広東雲南地方モ動乱ノ兆アル旨十二月二十四日上海三井支店ヨリ当地支店へ來電アリ果シテ右様ノ事実アリヤ折返シ何分ノ義御回電アリタシ

二六三 十二月二十五日 在天津松平總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

唐雲南將軍ヨリ大總統宛帝制反対及雲南獨立
ヲ電報シ来リタル件

第六一号

往電第六〇号ニ關シ更ニ該秘書ニ付總統府ヨリ巡按使ニ宛テタル電報ノ内容ヲ探リタル處該電報中唐雲南將軍ヨリ大總統ニ宛テタル電文アリ右ニ依レハ同將軍ハ帝制ニ絶対反対ノ意ヲ表シ誓ツテ共和ヲ維持スヘキコトヲ述ヘ大總統ハ宣敷帝制運動ノ首魁ト目セラル楊度孫毓筠梁士詒張鎮芳朱啓鈴袁乃寬外六名ヲ斬リテ天下ニ謝スヘク全軍ヲ率ヒテ大命ヲ待ツ云々トアリ次イテ独立ヲ宣言シ来リタル由ナリ右聞込ノ儘電報セリ

在支公使ヘ電報セリ

袁世凱帝制反対電報要領報告ノ件
在北京英國公使館ヨリ入手セル唐雲南將軍ノ

第七二五号

往電第七二二号ニ掲ケタル在雲南英領事ノ電報今朝英使館ニ到達セリ其ノ要領ハ十二月二十三日夜十一時雲南將軍府ヨリ將軍及巡按使連名ノ長電大總統ニ向ケ發セラレタルガ其ノ冒頭ニ於テ袁總統ガ是迄共和維持ニ対シ屢々宣誓ヲ為シタルコトヲ指摘シテ國体麥更ニ反対スヘキコトヲ主張シ且帝制運動ノ主唱者タル楊度段芝貴外十名ヲ斬リテ國民ニ謝シ總統ハ更メテ共和維持ノ宣誓ヲ為スヘシト云ヒ終リニ將軍巡按使共ニ其ノ今日アルハ袁總統ノ恩誼ニ依ルコトヲ思ハサルニアラサルモ時局ニ對スル部下ノ不平抑制シ難キモノアランコトヲ虞ルト云フニ在リ尚右ニ對シ翌日午前十時ヲ期シ回電ヲ待ツト附加シアリタル由
同英領事ノ電報ニ蔡鍔ハ二十日ニ雲南ニ入り唐將軍ハ先ツ其ノ弟ヲ遣ハシ予メ諸事ヲ内議セシメタリト在リ是ニ依リテ観レハ往電第七二三号中二十三日ノ電報ニ於テ雲南將軍参考迄

ノ意見急変シタルヲ認メタルハ蔡鍔入來ノ結果ト察セラル

二六五 十二月二十七日 石井外務大臣ヨリ
在英國井上大臣各宛(電報)
在露國本野大使各宛(電報)

唐雲南將軍ヨリ袁總統宛帝制反対電報及雲南
獨立ニ付通報ノ件

第三八八号(英宛)

第五七六号(露宛)

往電第(露)五七三号(一)ニ關シ

(以下英文) 右仮伊米ヘ転電アリタシ

十二月二十五日直隸巡按使秘書ヨリ在天津總領事ヘノ密報ニ依レハ雲南省ニ於テ愈独立ヲ宣言シタル旨總統府ニ公電アリタル趣ナルカ他面曹汝霖ハ在支公使館員ニ対シ雲南將

軍ハ曩ニ三回袁世凱ニ電報シ登位速行ヲ勧告シ殊ニ第二回ニハ李烈鈞三百余名ヲ率ヰ河口(仮領印度支那界)ヨリ進入セシモ直ニ擊撃シ雲南一省ノ治安ハ自ラ將軍タル限り全

責任ヲ以テ維持スヘシト誓言シタルカ後二十三日遽ニ帝制反対ノ電報ヲ寄セ來レルハ不審ニ堪ヘス多分同將軍ハ蔡鍔ノ旧部下タル為之ニ説伏セラレタルカ或ハ蔡鍔ノ旧部下タル軍人連カ擅ニ發電シタルモノカトモ想像セラルルモ其辺アリタル趣ナルカ他面曹汝霖ハ在支公使館員ニ対シ雲南將軍ハ曩ニ三回袁世凱ニ電報シ登位速行ヲ勧告シ殊ニ第二回ニハ李烈鈞三百余名ヲ率ヰ河口(仮領印度支那界)ヨリ進入セシモ直ニ擊撃シ雲南一省ノ治安ハ自ラ將軍タル限り全責任ヲ以テ維持スヘシト誓言シタルカ後二十三日遽ニ帝制反対ノ電報ヲ寄セ來レルハ不審ニ堪ヘス多分同將軍ハ蔡鍔

ノ旧部下タル為之ニ説伏セラレタルカ或ハ蔡鍔ノ旧部下タル軍人連カ擅ニ發電シタルモノカトモ想像セラルルモ其辺アリタル趣ナルカ他面曹汝霖ハ在支公使館員ニ対シ雲南將軍ハ曩ニ三回袁世凱ニ電報シ登位速行ヲ勧告シ殊ニ第二回ニハ李烈鈞三百余名ヲ率ヰ河口(仮領印度支那界)ヨリ進入セシモ直ニ擊撃シ雲南一省ノ治安ハ自ラ將軍タル限り全責任ヲ以テ維持スヘシト誓言シタルカ後二十三日遽ニ帝制反対ノ電報ヲ寄セ來レルハ不審ニ堪ヘス多分同將軍ハ蔡鍔

ノ旧部下タル為之ニ説伏セラレタルカ或ハ蔡鍔ノ旧部下タル軍人連カ擅ニ發電シタルモノカトモ想像セラルルモ其辺アリタル趣ナルカ他面曹汝霖ハ在支公使館員ニ対シ雲南將軍ハ曩ニ三回袁世凱ニ電報シ登位速行ヲ勧告シ殊ニ第二回ニハ李烈鈞三百余名ヲ率ヰ河口(仮領印度支那界)ヨリ進入セシモ直ニ擊撃シ雲南一省ノ治安ハ自ラ將軍タル限り全責任ヲ以テ維持スヘシト誓言シタルカ後二十三日遽ニ帝制反対ノ電報ヲ寄セ來レルハ不審ニ堪ヘス多分同將軍ハ蔡鍔

雲南地方動搖ノ件ハ上海新聞ニ依リ当地ニ伝ハレドモ信ヲ措クモノナク人心穩カニシテ市面平静ナリ官憲側ハ絶対ニ

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二六五 二六六

二四一

二六四 十二月二十六日 石井外務大臣宛(電報)

二六五 十二月二十七日 在九江大和久事務代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二六七 二六八 二六九

二四二

否認シ居レリ最近江西軍ノ一部湖南岳州ニ移動シタルモ右ハ四川軍ノ手薄ナル為メ之ヲ補ハン為岳州兵ヲ同地ニ派遣シ其ノ欠フ補ハン為ナリト江西ニテハ更ニ混成第三旅ヲ新設シ今回北方ニ於テ募集シ既ニ全部南昌ニ送ラレタリ

北京ニ転電ス

二六七 十二月二十七日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

二六八 十二月二十七日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南省獨立ヲ宣言シタル旨英國公使ヨリ内報

ノ件

第七二七号(至急)

雲南省愈々独立ヲ宣言シタル旨十二月二十六日発ヲ以テ在同地英國總領事ヨリ電報ニ接シタル趣只今英國公使ヨリ内報シ来レリ委細追電ス

雲南不穏情勢ニ伴フ龍濟光馮國璋汪精衛等ノ
動向ニ閔スル件

第八〇号

十二月二十七日唐繼堯蔡鍔二名ニテ發シタル君主立憲反対ノ檄電昨日龍濟光ノ許ニ達シタリ龍ハ雲南方面ノコトハ左程意ニ介セサル模様ニ見ユルモ馮國璋北上ノ意ナシトノ電報ニ接シ馮ノ態度ヲ大ニ憂慮シ居レリ岑春煊最近ニ於テ広西ニ入りタルモノノ如ク汪精衛又雲南ニ赴キタル形迹アリ広東政府最モ雲南騷動ヲ嚴シク秘密ニ附シ新聞ヲ嚴重ニ取締リ居レリ二十四日發雲南ヨリノ情報ニ依レハ同省ハ帝制反対ヲ發表セシモ至極平穩ナリト云フ

北京、上海、南京、汕頭、香港電済

上海暴動ト日本トノ関係ニ閔スル紐育極東局
二六九 十二月二十七日 石井外務大臣ヨリ
在上海電報ノ取消交渉打切ニ付回訓ノ件
在中国日置公使宛

政機密送第二四七号
本件ニ閔シ外交部へ御交渉ノ結果同部ヨリ申越ノ次第二付十二月二十三日貴電第七一八号ヲ以テ御申越候了承同電末段御稟申ノ通本件ハ之ニテ打切トシ可然ト思考致候此段御含迄申進候也

追テ前記貴電及上述ノ趣旨ハ在米大使及在紐育總領事ヘ

郵報致置候此段御含迄三申添候也

シ居リシカ十二月二十七日ニ至リ各漢字新聞ハ大要別電第
七三〇号ノ通雲南將軍及巡按使ノ帝制反対ニ閔シ中央政府ヨリ右將軍巡按使並各省地方官へ發シタル長文ノ弁駁的電報ヲ掲載セリ右ハ總統府側ヨリ掲載セシタルモノナルコトヲ確聞セリ

十二月廿七日滿鉄公所鎌田ノ談ニ依レハ雲南將軍ノ名ヲ以テ段將軍並張作霖ニ宛テ袁ノ手足トナリ帝政ノ実行ニ從事シタルノ不都合ヲ責メタル威喝的電報頻々シテ來リ段ハ此等ノ形勢ニ對シ大ニ痛心シ居ル由又張作霖ハ二等子爵ヲ授ケラレタルヲ不平トシ辭退ヲ申出テタルモ之ニ對シ未タ北京ヨリ何等申來ラサル由ナリ

北京ヘ電報ス

二七一 十二月二十七日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)
雲南將軍及巡按使ノ帝制反対電報ニ對スル中
央政府ノ弁駁的電報漢字新聞ニ掲載ノ件

十二月二十五日雲南將軍巡按使宛政事堂發電
十二月二十三日來電承悉貴所兩次ノ來電何レモ早ク帝位ヲ定メンコトヲ請ヘリ(以下屢次ノ來電要旨ヲ擧ケ是迄帝制賛成ナリシ事ヲ明カニシ)且十二月十八日及ヒ二十一日唐將軍ノ來電ニ旬日以來亂黨安南方面ヨリ党与ヲ遍布シ密謀甚々急ナリ幸ニ繼堯(將軍)防反嚴密所屬軍隊亦皆平穩ナリ雲南ハ父母ノ國タリ治安ヲ保全スルハ全ク自分ノ責任ニ属ス目下ノ形勢ニ依レハ決シテ動乱發生ノ虞ナシ云々トア

雲南不穏ノ風説ニ關シ各漢字新聞ハ是迄極力其事實ヲ否認
央政府ノ弁駁的電報漢字新聞ニ掲載ノ件

別電 十二月二十七日在中国日置公使ヨリ石井外務大臣宛電報第七三〇号
漢字新聞掲載ノ右電報要領

第七二九号

雲南不穏ノ風説ニ關シ各漢字新聞ハ是迄極力其事實ヲ否認
一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二七〇 二七一

二四三

リ今回ノ來電ハ僅カニ三日ヲ隔ツルニ過キサルニ其謂フ所極メテ奇怪ナリ本政事堂ニ於テハ殆ト貴所斯ノ如ク極端ナル反覆ノ電報アルヲ信スル能ハス思フニ何者カノ捏造ナラン付テハ改メテ自ラ記名捺印ノ上至急當堂へ発送アリタシ云々

第七三〇号ノ二

十二月二十六日附雲南將軍巡按使及各省將軍巡按使宛政事堂發電

十二月二十三日來電カ果シテ捏造ナルヤ否ヤ尚調査ヲ要スル次第ナルカ今暫ク右來電ノ要点ヲ摘記スレハ第一列強ノ干涉及外國ノ侮辱ヲ受ケタルコト第二元首ノ誓ニ背キ信ヲ失ヒタルコト第三官民ノ推戴ハ其ノ本心ニ出デタルニ非ザルコト第四國体變更ヲ主張シタル諸人ニ対シテハ其ノ罪ヲ糺スコト第五帝政ヲ取消シテ共和ヲ恢復スルコト等ナリ查スルニ日本カ英仏露各國ヲ誘ヒ友誼的勧告ヲナシタルハ全ク内乱ヲ惹起シ各國居留民ノ生命財産ニ危害ヲ及ホサンコトヲ恐レ一時延期ヲ請ヒタルノミ且ツ決シテ我内政ニ干涉スルニ非ザルヲ声明セリ今ヤ勸告問題モ当ニ結了シ承認問題当ニ進行中ナリ毫モ干涉侮辱ヲ受ケタリト云フヘキモノ

スルノ甚タシキモノナリ請フ唐任両公ヨリ發電ノ人ニ転示セラレタシ言茲ニ尽ク其自ラ執ルニ委ス云々 (終リ)

二七一 十二月二十七日 在中国日置公使 (石井外務大臣宛) (電報)

唐雲南將軍ノ獨立宣言ニ関スル在雲南英國總領事

領事仏國領事電報內容報告ノ件

第七三三号

往電第七二七号英國總領事電報左ノ通

將軍ハ左ノ意味ノ宣言ヲ發セリ曰ク大總統ハ誓言ヲ破リテ帝位ニ即キタリ依テ本將軍ヨリ共和復活ヲ熱心ニ勸告セリ雲南省ハ今ヤ既ニ中央政府トノ關係ヲ斷絶セリ尤省ノ政治ハ從來ノ通実行セラルヘシ(宣言ニハ巡按使ノ名ナシ)

十二月二十六日在雲南仏國領事發仏國公使館着電報左ノ通

唐將軍ノ宣言揭示セラレタリ曰ク列國ノ承認ヲ經タル共和國ハ四年來常ニ治安ヲ維持シタリ袁總統ハ憲法ヲ犯シ誓言ニ背キ五國ノ抗議ニ拘ハラントス我省ハ中央政

府ト一切ノ關係ヲ断絶ス又四川省ノ二個師團ハ雲南省ト共ニ立チ雲南ノ兵五千広東広西貴州方面ニ向ケ出發セリ當地外國公使中例ヘハ露國公使ノ如キハ今回ノ宣言ハ單ニ

ナシ又本月十一日ノ申令ニモ云ヘル如ク大總統ハ曾テ參議院ニ於テ共和維持ノ宣誓ヲナシ今若シ自カラ帝制ヲ實行セハ信義上弁解ノ辞ナカラムト答ヘタルニ國民總代表ハ宣誓ハ民国ノ元首例ニ従ヒテナス所ノモノ然ルニ元首ノ位置ハ國民ノ全体ニ基ク從テ元首ハ民意ヲ見テ其ノ從違ヲ決スヘキモノナリ

第七三〇号ノ三

今國民共和ヲ捨テ君權ニ赴キ國体已ニ變更ス元首ノ地位亦之ニ伴フテ變化ス誓詞亦自然ニ消滅スヘキナリ(以下全國官民一致推戴ノ事實ヲ列挙シ決シテ少數人士ノ左右スルコト能ハサルノミナラス元首ノ尊サト雖之ヲ如何トモスル能ハサルヲ弁明シテ前記五項ニ對シ一々弁駁ヲ加ヘ最後ニ)此國家多難内外ニ對シ辛苦經營ヲ講スルノ時ニ當リ我愛國ノ君子タルモノ當ニ私見ヲ棄テ同心協力共ニ自強ノ道ヲ圖ルヘシ若シ政見ノ一致セサル所アラハ從容討議ヲ尽スヘシ私意ヲ逞フシ輕舉暴動スルコトアラハ之レ自ラ外部干涉ノ端ヲ啓キ國家ヲ傾覆スルモノナリ天下後世之ヲ何トカ云ハシ殊ニ不都合ナルハ來電中日ヲ限リテ答覆ヲ求メ且部下ヲ率ヒテ命ヲ俟ツト云ヘル如キ実ニ上ヲ侮リ法ヲ蔑ニ

中央トノ關係断絶シタルコトヲ表明セルニ止リ獨立宣言トハ少シク意味合ヲ異ニスルモノナリトノ見解ヲ取り居レリ

二七三 十二月二十七日 在廣東赤塚總領事 (石井外務大臣宛) (電報)

雲南騷動ノ為雲南廣東間ハ外國公使領事間ノ

平文電報ノミ取扱ノ件

第八一号

北京交通部ヨリ当地電報局ヘノ電訓ニ拠レハ雲南騷動ノ為平文電報ハ在雲南各國領事ト北京各國公使若ハ在支那各地領事トノ間ニ往復スルモノノミニ限り当分之ヲ受理スルコトヲ得但シ雲南以外ノ他處トノ電報ハ常ノ如クニ取扱フトアリ

北京電済ミ

二七四 十二月二十八日 在中国日置公使 (石井外務大臣宛) (電報)

雲南獨立ノ情報ニ關シ曹外交次長ノ談話報告

ノ件

第七三五号

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二七五

二四六

國公使宛電報報告ノ件

第七三六号

シタル處曹ハ支那政府側ニハスル報道達シ居ラサルヲ以テ未タ容易ニ信シ難シ右報道ニシテ若シ事実ナリトセハ雲南ヨリ必ス他省將軍等ニ通電アルヘク左スレハ何レカノ將軍ヨリ電報アルヘキ筈ナルニ未タ何等情報ナシ中央政府ト雲南トノ通信ハ目下断絶ノ姿ナリ昨日北京ヨリ發シタル電報

(往電第七三〇号参照)ハ確ニ先方ニ通シタリト思料スルモ未タ何等回答ナシト述ヘ尚雲南ハ元来甚辺鄙ノ地ニテ國際ノ關係中央ノ模様等明瞭シ居ラサルハ雲南ノ事情カ中央ニ分カラサルト全然同様ナレハ蔡鍔等ヨリ帝制ニ対シ外國ヨリ干渉アリタルナド大袈裟ニ吹聴シタリトセハ之ニ迷ハサレタルモ無理ナラヌ次第ナリ又貴州広西等ノ將軍ヨリハ既ニ雲南討伐ヲ電稟シ來レリト語レリ次テ本使ヨリ四川省ノ二個師団起テリトノ情報或筋ニ達シタルカ何等聞込ミタル事ナキヤト尋ネタルニ右ハ全ク無根ノ風説ナリ四川ノ軍隊ハ全部ニテ二個師団ヲ越エス而モ内一個師団余ハ北方軍ナルヲ以テ断シテサル心配ナシト答ヘタリ御参考迄

二七五 十二月二十八日 在中国日置公使ヨリ

石井外務大臣宛(電報)
雲南獨立ニ閔スル在雲南仏國領事発在中国同

仏國公使ヨリ十二月二十六日以前ニ接手セル雲南仏國領事發電報内示ヲ受ケタルニ付既電ノ分ト多少重複ノ点アルモ御参考迄大要左ノ通電報ス

(二十一日発)李烈鈞ハ他人ノ旅券ヲ以テ東京ヲ通過セル旨印度總督ヨリ通報アリタリ蔡鍔ハ昨夜雲南ニ到著セルカ如シ

(二十二日発)蔡鍔ノ当地ニ在ルコト確認セラレタリ將軍ハ北京ヨリ同人逮捕ノ命令ヲ受ケタルモ却テ多大ノ敬意ヲ

以テ待遇セリ袁世凱反対ノ革命ハ十二月二十三日若クハ一月一日ヲ以テ雲南四川貴州広西広東浙江湖南ニ起ルヘキ力如シ

(二十四日発)二十三日將軍及巡按使ヨリ袁世凱ニ發シタル電報要領左ノ通

帝制ハ不安憤怒ヲ惹起セシム足下ハ共和ニ忠実タルヘシトノ誓言ヲ守ラサリキ帝制贊成ノ各省投票ハ金錢ト政府ノ圧迫ヲ以テ得タルニ過キス足下ノ有スル広大ナル權力ハ足下ニ取り十分ナルヘキ筈故足下ノ計画ヲ放棄セラルヘシ約

ニモアラサルニ付支那政府ヨリ申出ヅル証ニモ参ラサルヘシ云々ト語リタルコトアル旨内話セリ

二七七 十二月二十八日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

北京「デーリー・ニュース」及北京「ガゼット

ト」掲載ノ雲南問題ニ閔スル「ステートメント

ト」ノ件

別電

三九号

右「ステートメント」

第七三八号

十二月二十八日ノ北京「デーリー・ニュース」及「ガゼット」

ハ雲南問題ニ閔シ大要別電第七三九号ノ如キ同文 Statement ヲ掲載セリ右ハ支那政府筋ヨリ掲載セシメタルモノト認メラル

(別電)

十二月二十八日日置公使發石井外務大臣宛電報

北京「デーリー・ニュース」及北京「ガゼット」掲載ノ「ステートメント」

ハ甚好都合ナルモ右ハ到底仏國政府ノ承諾ヲ得ヘキ事柄

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二七六 二七七

二四七

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二七八 二七九

二四八

蔡鍔及唐繼堯ハ元來帝制贊成者ナルモ蔡鍔ハ革命党側ヨリ

支那政府が五國ノ勸告ニ対シ交換条件トシテ多大ノ利權提

供ヲ約シタリト聞キ間接ニ之ニ動カサレ病氣保養ヲ名トシ

テ密ニ別府ニ赴キ事ノ真偽ヲ探ランカ為譚人鳳ト會見セリ

譚ハ告クルニ其ノ全ク事實相違ナキコトヲ以テシタル為蔡

ハ大ニ憤慨シ直ニ雲南ニ密行シ旧部下タリシ同地軍隊ニ之

ヲ通報セリ唐繼堯ハ元來意志薄弱ナルノミナラス邊境ノ地

ニ在リテ中央ノ事情ニ通セサル為蔡鍔及軍隊ノ一部ニ強ヒ

ラレ終ニ帝制ニ反対スルニ至リ茲ニ於テ政府ハ蔡鍔ガ乱

党ニ誤マラレタルコトヲ知リ時局ヲ説明スル為既二人ヲ雲

南ニ派遣シ且決シテ五國ニ利權提供ヲ約シタルコトナキヲ

保証シ一面万一二備フル為軍隊ヲ要所ニ配置セリ雲南ハ邊

境ノ地ニシテ兵力薄ク軍需品乏シキヲ以テ到底政府ニ向テ

強硬ナル抵抗ヲ為シ得サルヘク從テ鎮靜左迄因難ナラサル

ヘシトハ思料スルモ此際帝制延期ヲ勧告セル諸國ニ於テ決

シテ支那ノ内政ニ干渉シタルコトナキコト及決シテ支那政

府ヨリ何等ノ利權ヲモ要求シタルコトナキヲ宣言セラレン

コト切望ニ堪ヘス

二七八 十二月二十八日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南討伐ノ為第三師長曹琨ヲ總司令官ニ任ジ

ル件

第二三九号

往電第二三七号ニ関シ十二月二十七日中央政府ヨリ段將軍

ニ宛テ第三師長曹琨ヲ總司令官ニ任シ四個師團ノ兵ヲ率ヒ

テ雲南叛徒ヲ討伐スヘキ旨ヲ命シ既ニ軍費百五十萬元ヲ曹

ニ送附シタル趣内報アリ又張作霖ノ不平ニ対シテハ同日袁

克定ヨリ特使ヲ派スル旨電報アリ張ノ不平ハ甚シキモ多分

右特使ノ慰撫ニテ泣寝入リトナルヘシト観測セラル將又段

ハ近日來心労ノ余リニヤ身體衰弱シニ三日前吐血シ平生ノ

元氣ナシト(以上鎌田ノ談)聞込ノ儘御参考迄

在支公使ヘ電報セリ

二七九 十二月二十八日

在廣東赤塚總領事ヨリ

石井外務大臣宛(電報)

雲南獨立ニ對スル龍濟光等ノ向背ニ關シ報告

ノ件

第八二号

スヘキコトヲ求メ十二月二十五日午後十時迄三回答スヘキ

旨ヲ附加シアリシト云フ御参考迄在支公使在上海總領事館

在香港總領事館ニ電報セリ

二八〇 十二月二十八日 在漢口瀕川總領事ヨリ

石井外務大臣宛(電報)

雲南獨立ニ關聯シ漢口官憲ノ警戒及革命党ノ

策動ニ付報告ノ件

第一三九号

今回ノ雲南事件ハ未タ当地一般ノ人民ニハ知レ涉ラス且新

聞紙上ニモ何等記載スル所ナシト雖支那官憲ハ此ノ事件ノ

影響ヲ非常ニ憂慮シ居ルモノノ如ク警戒ハ兩三日一層厳重

トナリ漢陽兵工廠ノ如キハ夜間其ノ附近ノ通行ヲ禁シ又各

軍隊ニ於テハ當門ノ出入ニ身體検査ヲ行ヒ居レリト尚革命

党側ヨリノ報告ニ依レバ從来湖北ノ革命党ハ上海ニ在ル陳

其美及蔡濟民ノ指揮監督スル所ニシテ今日迄ハ單ニ少數ノ

黨員ヲ往復セシメ情報ヲ蒐集スルコトトシ居タルニ昨今ニ

至リ多數ノ黨員陸續当地ニ入込ミ仏租界内ニ機關部ヲ設ケ

方某ナルモノ之レカ頭目トナリテ專ラ軍人ノ操縱ニ努メ居

レリ而シテ陳其美等ハ南京占拠ノ計画ヲナシタルカ故ニ當

雲南仏國領事ヨリ當地仏國領事ニ達シタル電報ニ依レハ雲

南將軍並ニ巡按使ヨリ袁世凱ニ送リタル電報ニハ袁ニ帝位ヲ退クヘク勸メ同時ニ帝制運動ノ巨魁十二名ヲ直チニ銃殺

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二八一 二八二 二八三

二五〇

地ニ於テハ專ラ南京ノ形勢如何ヲ觀望シ南京若シ一度其ノ手ニ落ツルニ至ラハ直ニ之ニ応シテ立ツ考ヘナリト云フ

在支公使ヘ転電済

二八一 十二月二十九日 在中國日置公使（ヨリ）石井外務大臣宛（電報）

雲南事件ハ他省ニ波及スルコト無ガルベキ旨

陸徵祥談話ノ件

第七四二号

十二月二十八日往電第七四（註）一号ノ件ニ閔シ陸徵祥訪問ノ際雲南事件ニ付キ尋ネタルニ蔡鍔ハ元來帝制賛成ナリシニ拘ハラス今回ノ態度ニ出タルハ何等カノ誤解ニ基クモノト認メラルニ付意志疏通ヲ計ルタメ目下夫々適當ノ措置ヲ講シツツアリト語リ尚中央政府トシテハ軍隊ヲ進メテ討伐ヲナスカ如キコトハ成ルヘク見合セ穩便ニ落着セシムル方針ナリ幸ヒ雲南以外ノ各省將軍ハ何レモ蔡鍔等ノ態度ニ反対シ続々雲南及中央政府ニ向ヒテ其ノ旨電報シツツアルニ付雲南以外ニ波及スルコトハ先ツ之レナカルヘキ見込ナリト

附言セリ

御参考迄

雲南事件ニ閔シ十二月二十八日王鎮守使ノ談ニ依レハ当地諸軍ニテモ過日新聞紙上ニ現ハレタルカ如キ雲南帝制反対ノ檄電ニ接シタルカ今日突然該省ガスカル行動ニ出テタルハ甚タ不可解ノコトナリ就テハ馮國璋ハ十二月二十七日夜大總統ヘ宛今日トナリテハ一日モ速ニ即位シテ民心ヲ安堵セシムルハ良策ト思考ス且何時ニテモ中央ノ命令アラハ出征スヘキ旨電票シ各地諸軍等ニ對シテモ右ノ旨ヲ通スルト

同時ニ中央政府ニ於テ命令アル迄輕舉ナキ様ニト電請アリタル由ナルガ當地軍人社會ノ意見ニテハ貴州巡按使ヨリ發議シ來リタル通り暫ク討伐ヲ見合セ先以テ各省ヨリ利害ヲ説キ歸順ヲ勸メ平和ニ解決スルヲ可トスペク又仮令勸告ニ遵ハサルトキト雖地勢不便ナル同省ニ對シテハ急ニ討伐ノ師ヲ興シ事件ヲ益々大ナラシムヨリモ遠巻キニ其ノ自滅ヲ待ツコト却テ可然トノ意見ニ傾キ居レリ又馮國璋參謀總

長ノ任命ハ黎元洪親王昇格ノ結果其ノ後任トシテ將軍中最モ威望アル馮國璋ヲ名譽的ニ任シタルノミニシテ実務ハ次長之ヲ指揮スル筈ナリ右任命ニ閔シテハ予メ中央ヨリ内話アリタル後發表セラレタルモノニシテ之ニ付外間ノ謠言ヲ見ルニ至レルハ意外トスル所ナリ

註 日置公使來電第七四一号ハ遣日特派使節ニ閔スル件ナリ

二八二 十二月二十九日 在中國日置公使（ヨリ）石井外務大臣宛（電報）

在雲南英國領事ガ唐雲南將軍ニ對シ英國ノ援助ヲ期待スベカラザルコトヲ内告シタル旨

本邦英國大使内話ノ件

第六九三号

十二月二十八日本大臣在本邦英國大使ト會見ノ節同大使内話シタル處ニヨレハ雲南在勤英國領事ハ唐將軍ニ對シ同將軍ニ於テ事ヲ起スニ當リ英國側ヨリ何等ノ援助ヲ期待スヘカラサル旨内告シ置キタルガ右ハ雲南境上ニ於テハ仏國ノ守備已ニ空虚ナルノミナラズ英國ノ守備亦全ク欠乏シ居ルニ付此際同地方ニ事端ノ生スルハ望マシカラサル故之ヲ防止シタキ考ニ出テタルモノナリトノコトナリ右御参考迄

二八三 十二月二十九日 在南京高橋領事（ヨリ）石井外務大臣宛（電報）

雲南事件ニ付馮國璋ノ執レル措置、雲南事件平和的解決策等ニ閔スル王鎮守使談話報告ノ件

第六九四号

在支公使ニ転電シ上海ニ郵送シタリ
二八四 十二月二十九日 在中國日置公使（ヨリ）石井外務大臣宛（電報）

唐雲南將軍ノ反袁運動ニ閔シ在中国英國公使

別電 同日日置公使発石井外務大臣宛電報第七四四号
在中国英國公使ガ在廣東總領事及在梧州領事ヨリ接受ノ電報寫

第七四三号

十二月二十九日正午英國公使ヨリ別電第七四四号英國領事來電写ヲ内送シ且今朝ハ右ノ外重要ナル報道ニハ接セサルモ唐繼堯ハ今ヤ全ク蔡鍔ノ influence ノ下ニ在リ中央政府トノ関係ヲ復活セシメサルコトニ決心シ居ル模様ナリト申添ヘ来レリ

（別電）

十二月二十九日在中國日置公使発石井外務大臣宛電報
在中国英國公使ガ在廣東總領事及在梧州領事

ヨリ接受ノ電報写

第七四四号

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二八四

二五一

イ 將軍

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二八五 二八六 二八七

二五二

二面会セルニ大要左ノ通内話セリ

貴州及広西ヨリ雲南ニ向ケ軍隊ヲ出動セシメツツアリ唯今

ノ処帝制反対運動ハ雲南一省ニ過キス自分ハ帝制賛成方雲

南官憲ニ電信ヲ以テ勧告セリ広西省ハ大丈夫ナリ広東省ノ

秩序維持ニ就テハ十分ノ成算アリ帝制反対運動ハ他ニ波及

セサルヘク且左迄重大ナラサルガ如シ

(同日南甯發在梧州領事電報) 本日陸將軍ト會見セルニ同

將軍ハ唐繼堯ノ共和維持ヲ主張スルニ至レルハ革命党ノ圧迫ニ出テタルモノニテ広西省ニ於テハ何等事ナカルベシト確信ス万一事變起ルモ必ス治安ヲ維持シ得ル見込アリ自分ハ飽迄袁世凱ニ忠実ナルヘシト語レリ將又当地方ハ靜穩ニシテ別ニ警戒の措置ヲ執リツアル模様ナシ(在梧州領事ハ旅行ノ途次偶々南甯ニ來レルモノナル由念ノ為)

二八五 十二月二十九日 在漢口瀬川總領事ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

北洋第七師團ノ兵千五百名漢口來著ノ件

第一四〇号

十二月二十八日夜半北洋第七師團第二十六聯隊ノ兵全部約千五百名京漢鐵道ニテ來著江岸停車場ニ露營シ居レリ右ハ

西ノ陸將軍ニ雲南討伐ヲ又龍濟光ニハ出師ノ準備ヲ電命シ来レリト云フ

雲南ニ隣接シ且シ既ニ出師命令ヲ受ケタル陸ノ軍隊ニモ往電第八二号ノ事情アリ其討伐命令ハ大ニ注意ニ值ヒスヘキ處右參謀カ昨日広西獨立ノ謠言アル旨龍ニ語リタルニ龍ハ之ヲ打消シ陸將軍ハ同心ノモノナレバ決シテ斯カル心配ナシト断言シタリト云フ又本日龍濟光ノ許ニ達シタル情報ニ依レハ貴州ハ未タ雲南ト聯絡ヲ有セス其將軍ハ北京政府ニ援兵ヲ電報請求シ居レリト尚右參謀ノ内話ニ依レハ雲南ヨリ發シタル帝制反対ノ檄文ニハ蔡鍔唐繼堯ノ外ニ康有為ノ名ヲ連ネアリ康有為ノ果シテ雲南ニ在ルヤハ疑問ナルモ昨二十八日北京政府梁啓超ノ行衛ヲ厳探スヘキ電報訓令アリシニ看ルモ康有為一派ノ帝制反対運動ニ關係アルハ疑ナカルヘシトアリ

在支公使在上海總領事在香港總領事(不明)ニ電報セリ

二八八 十二月二十九日 在長春山内領事ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

唐雲南將軍ヨリ吉林將軍等宛帝制反対勸誘ノ電報アリタル件

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二八八 二八九

武昌ノ防備ニ充ツルモノナリト云フ

北京へ転電済ミ

二八六 十二月二十九日 在中國日置公使ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

北京南苑駐屯ノ第七師湖南岳州ニ向ケ出動ヲ

命ゼラレタル件

第七四七号

当地南苑駐屯ノ第七師ハ湖南岳州ニ向ケ出動ヲ命セラレニ十七日來輸送ヲ開始セリ交通部當局ニ確メタル所ニ依レハ右輸送ハ特別列車ニ依ルヲ以テ普通貨客ノ輸送ニハ格別影響ナキ見込ナリト云フ

漢口、長沙ニ転電ス

二八七 十二月二十九日 在廣東赤塚總領事ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

北京政府ハ広西ノ陸將軍ニ雲南討伐ヲ又龍濟光ニハ出師準備ヲ命シタル旨等龍濟光ノ參謀内話ノ件

第八五号

龍濟光ノ參謀ノ内話ニ依レハ北京政府ハ昨二十八日午後広

在吉林領事森田ヨリ第三六号

確カナル筋ヨリ聞ク所ニ依レハ雲南唐將軍任巡按使ヨリ吉林將軍及巡按使ヘ電報ニテ天下ノ耳目ヲ蔽テ強テ帝制ヲ遂行セムトスルカ如キハ國家ニ對シ不利ナレハ飽迄之レヲ阻止スルノ覺悟ナリ尚又之レニ參同セラレタシトテ帝制反対ヲ勧誘シ來リタレドモ之ニ對シ何等返電セサル趣當地官憲ハ之ニ動カサレサル模様ナリ

右御参考迄申進ス

二八九 十二月三十日 在中國日置公使宛(電報)

仏國側ハ中國ニ於ケル革命運動又ハ帝制反対運動ニ對シ好意ヲ有シ居ル疑アルニ付内探ノ

上電報方訓令ノ件

第六九五号

諸種ノ情報ニヨルニ最近支那ニ於ケル革命運動又ハ帝制反対運動ニ對スル仏國官民ノ態度ハ英國ナドトハ趣ヲ異ニシムシロ此種ノ運動ニ對シ暗ニ好意ヲ有シ居ルニハアラサルカト疑ハル節アリタトヘハ過般上海ニ於ケル暴動ノ際ニ

モ主謀者ノ根拠ハ仏国租界ニ在リテ仏国官憲ハ陰ニ陽ニ革命同志ヲ保護スルガ如キ態度ヲ執レリトモ伝ヘラレ又雲南ノ独立運動ニ付テモ仏国側ハ蔡鍔等ニ好意ヲ表シ居リ同人ノ雲南ニ入りタル際ニモ啻ニ之ヲ阻止セサリシノミナラズ却テ便宜ヲ与ヘタリトノ説モアリ此ノ如キハ或ハ張繼（目下東京市内ニ在リ）等ガ仏國滯在中國有力者等ト接近シ革命成功ノ曉ニ於ケル利權讓与ヲ条件トシ特殊ノ關係ヲ結ビ居ルガ如キ事情ニテモアルニ由ルニハアラサルカトモ想像セラルル處其辺ニ付何等御心当リナキヤ御内探ノ上電報アリタン

以上参考トシテ在上海總領事へ転電アリタシ

二九〇 十二月三十日 在中国日置公使（ヨリ
石井外報大臣宛）（電報）

唐雲南將軍任巡按使等免職查弁ノ申令公布ノ

件

第七四八号

往電第七四六号ニ關シ十二月二十九日附三十日政府公報ヲ以テ左ノ如キ申令公布セラレタリ

代行立法院ヨリ唐繼堯任可澄ハ口ヲ外交ニ藉リ内亂ヲ釀成

セントス大罪ノ一ナリ民國ノ公意ニ反シ國民ノ公敵ト為ル大罪ノ二ナリ元首ヲ侮蔑シテ大不敬ヲ敢テス大罪ノ三ナリトテ罪状ヲ宣布シテ出兵討伐ノ建議ヲ為シ又各省將軍巡按使等蔡鍔唐繼堯任可澄ノ罪ヲ鳴ラシ懲弁アランコトヲ請ヒ來レリ唐任ハ十二月二十一日以前ニハ速カニ即位アレト電請シ蔡ハ在京ノ日真先キニ君主立憲ヲ主張シナガラ反覆常ナシ唐任ハ或ハ匪徒ノ強迫ニ出テタルヤモ知ルヘカラサルモ終始維持シ能ハサリシ科アルニ因リ免職ノ上爵位勲章ヲ褫ヒ查弁スヘク蔡ハ行跡詭秘ニ付官職及勲位勲章ヲ褫奪シ該省地方官ヨリ勒シテ來京セシメ一律ニ查弁セシム

又同日策令ヲ以テ張子貞（現雲南第一師團長）ニ將軍銜ヲ加ヘ雲南軍務ヲ暫ク督理セシメ劉崇武（現雲南第二師團長）ヲ雲南巡按使代理トシ蠶心湛ヲ警戒局督弁ニ特任セリ將又立法院ヨリ十二月二十九日各省將軍巡按使等ニ宛大要左ノ如キ通電ヲ發シタリ

君憲ノ國体ハ國民ノ公意ニ依リ決定シ唐、任ハ先ニ推戴シナカラ後ニ反覆ス近ク通電ニ依レハ口ヲ列強ノ干渉外部ノ責任ニ藉ル本院ハ國家ノ主權ト政府ノ信用ニ關スルヲ以テ五國勸告ノ実情如何曾テ我内政ニ干渉シタルヤ政府ハ窃ニ

利權ヲ許シ交換条件トシタルヤヲ質問セルニ政府當局者ノ答弁ニ拠レハ各國公使カ外交部ニ赴キ口述セル勸告ハ帝制ノ急進ハ或ハ麥亂ヲ生スルヲ慮リ暫ク延期セヨト云ヒ且ツ

友誼勸告ニシテ決シテ内政干涉ニアラスト声明セルニ依リ我當局モ口頭ヲ以テ國体ノ改革ハ民意ニ出テ約法ニ依レハ主權ハ國民全体ニ基クニ因リ國民ノ公決ニ任セサルヘカラス此事ハ完全ナル内政ニテ国内ノ治安ハ全責ヲ負フヘシト答ヘ國体投票決定ノ後外交當局ハ各公使ノ來部ヲ求メ君憲ハ既ニ決定セルモ籌備ノコト甚タ多ケレハ當然時日ヲ費ヤスヘシト面告セリ更ニ本月十五日五國公使ハ外交總長ニ對シ五國政府ハ前回支那政府ガ國內ノ治安維持ノ責ニ任スヘシト云ヒタルコトハ既ニ諒解セリ五國政府ハ即チ靜觀ノ態度ヲ持スヘシ決シテ支那ノ獨立及主權ニ干涉スルノ意ナシト述ヘタリ此外ニ政府ハ各國口頭又ハ文書ニテ何等ノ条件ヲ訂立シタルコトナシト云フ唐、任ノ通電ハ浮説ニ出ツルモノナリ云々

註 前掲二六文書別電

二九一 十二月三十日 在中国日置公使（ヨリ
石井外務大臣宛）（電報）

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二九一

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二九二 二九三 二九四

二五六

二九二 十二月三十日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

二九三 十二月三十日 在重慶清水領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

朱直隸巡按使等在京雲南出身ノ官民連名ニテ
雲南地方官民宛中央政府ニ反抗ノ態度ニ出于

告ノ件

サル様勧告電報ヲ発スルコトトナリタル趣報

告ノ件

第七五〇号

直隸巡按使朱家宝ハ其筋ノ内命ニ依リ来京中ナル處李盛鐸ノ館員ニ語ル所及ヒ其他ノ情報ニ依レハ同人ハ雲南出身ナルヲ以テ其筋ニテハ最初宣慰使トシテ同人ヲ雲南ニ派遣シ度キ意向ナリシモ右ハ極メテ冒險ナルノミナラス却テ乱徒ニ利用サルルノ虞アリトテ確ク之ヲ辞シタルニ付之ヲ中止シ其代リ朱ヲ初メトシ在京雲南出身ノ官民連名ニテ雲南地方官民ヘ宛テ目下國家多難ノ際同胞牆ニ闕クノ不利ナルヲ説キ反抗的態度ニ出テサル様勧告的ノ電報ヲ発スルコトトナリタリト云フ尚中央政府ニテハ可成懷柔手段ヲ以テ制圧セントノ希望ヲ有シ時宜ニ依リテハ將軍府奮威將軍丁^(?)醇(雲南出身)ヲ実況取調ヘ旁々雲南方面ヘ派遣スルコトトナルヤモ計リ難シトノコトナリ

此種電報ハ在支公使ヘモ發ス

二九四 十二月三十日 在英國井上大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南広西ノ独立其他各地不穏ノ状況ニ関スル
北京発「テレグラフ」紙特電要領報告ノ件

第六三八号

十二月二十八日北京発「テレグラフ」特電要領

西南諸省ヘノ電報ハ各所切斷セラレ通信不通ナルモ雲南広西省ハ予定ノ計画ニ從ヒ着々行動シツツアルコト今ヤ明瞭ナリ即チ右西省政府ハ既ニ各国領事ニ対シ省内秩序ノ維持ト外國人生命財産ノ安固ヲ保証シ外部ヨリノ攻撃ニ遭遇セサル限り省政府ノ努力ハ單ニ適法ナル国体即チ共和政体ノ維持ニノミ局限セラルヘキ旨ヲ声明セリ北京政府ハ仏國

公使ヲシテ東京境上ニ戒厳令ヲ布告シ又雲南印度支那間ノ鉄道切斷並ニ「レッド、リヴァー」航行禁止ノ目的ノ為メ印度支那總督ノ協力ヲ取り付ケシムル為メ多方努力シタルモ仏國公使ハ自己ノ権外ナリト言明シ商議ハ今ヤ巴里ニ移サレタリ koshuu (貴州?) 巡按使ハ既ニ南方派ノ捕虜同様ノ境遇ニアリ袁ノ授ケタル公爵ヲ拒絶シタル張敷將軍ハ二十五日殆ト暗殺ノ難ニ遭ハントセル等各地不穏ノ出来事続発シツツアリ形勢頗ル危険且急転ノ徵アリ第七師團ハ十二月二十七日夜湖南ニ向ケ出發セリ同地方モ大ニ不穏ナリ揚子江方面ノ軍隊モ由來爆發ノ素因ニ富ムヲ以テ之ヲ南方ニ出動セシムヘシトハ期待セラレ居ラス既ニ馮国璋ニ対シ南方派ヨリ大總統ニ推戴ノ申込アリトノ説スラアリ在北京

外國銀行家等ノ説ニ依レハ一方數月來政府ハ頻リニ現金貯

一 袁世凱帝制計画ニ関スル件 附 二九五

第一七一号

公使ヘ転電済

当地滯在中ノ梁啓超ヨリ内密ニ面談ヲ求メ來レルニ付昨三日來訪ニ応シタル處同人ハ先ツ我邦ノ警告ニ對シ其当ヲ得タルヲ感謝シ次テ帝政ノ必スヤ内亂ノ動機トナリ自國ノ為メ極メテ不利益ナルヘキヲ確信ス在京最後ノ二三ヶ月間極力之カ中止ヲ勧告セルモ遂ニ容レラル処トナラサリシガ甚タ遺憾ナリトシ自己カ閻僚トシテ袁ニ親近中切実ニ感セル處ニ依ルモ袁ハ國內ニ在リテハ民心ニ重キヲ措カヌ軍隊乃至警官ノ增加ニ依リテノミ勢力ヲ維持セントシ外交ハ遠ク交リ近ク攻ムルヲ事トシ日本ノ地位及勢力ヲ諒解セス

二五七

之ヲシテ永ク権力ノ地位ニ在ラシムルノ危禍ヲ憂ヒタルヲ
確知セリ今ヤ其帝政ヲ実行セントスルニ及シテ革命党ノ一
派ハ素ヨリ前清ノ遺臣及袁ニ平カナラサルモノ等反袁ノ氣
勢全国ニ漫レリトナシ今次雲南ノ挙ノ第二次革命ト異レル
ヲ説キテ曰ク「其當時ハ袁ノ人物手腕ノ未タ明白ナラス或
ハ善政ヲ布ク事アルヘキ望ミヲ嘱サレタルト」(江西安寧等
ハ地ノ利ヲ得ス攻撃ニ容易ナリシ上)時尚未第一次革命ニ
近ク民心乱ヲ厭ヒ和平ヲ之レ欲シタリシモ今ヤ(袁ノ悪政
ハ日ヲ逐フテ益々甚クシ)雲南ハ攻撃ニ容易ナラス(民心
袁ニ飽キ一時ノ亂禍ヲ賭シテモ禍源タル袁ヲ除カント欲ス
ルコト等重ナル相違ノ点ナリトシ各省將軍其他ヨリ得ル消
息ニ照スモ彼等ノ多クハ袁ニ反対セルモノト認ムベク北京
ニ在ル者ト雖モ彼ノ与党ヲ除クノ外公然反対シテ離京シ得
ル自分等ノ如キハ少ナク大概徐世昌等ノ如ク已ムヲ得ス抑
留セラレ居ルモノト認ムヘク今回雲南ノ独立ニ付未タ準備
ノ整ハス用兵ノ尚ホ時期ニアラサル等ノ為メ急ニ蹶起セサ
ルモノモ攻ムルノ易カラサル為メ雲南ニシテ暫ク自立ゼン
カ漸次之ニ参加スヘク是ニ於テ事態ハ益々重大トナルヘク
其際諸方面ヨリ多少ノ斡旋ハ乱禍ヲ大ナラシメスシテ能ク

時局ヲ收拾シ得ヘシト述べ今回雲南ノ挙ハ少クモ系統アル
反袁運動ノ一端ニシテ袁帝政ニ反対セル者ノ中ニハ素ヨリ
各種ノ分子有ルベク袁ヲ倒スコトノミニ一致シ居ル外統一
ナキモノノ如キモ事ノ発展ト共ニ漸次組織立ツヘク雲南ノ
举ノ蔡鍔到著後二三日ニテ發生セルニ看テ事前十分ノ準備
アリシヲ看ルヘク各省ノ事又以テ推知スヘシトシ今次ノ事
変ニ付彼ト蔡鍔ノ関係ニ至リテハ只師弟ノ関係ヨリ予メ相
談ヲ掛ケタリシモ強テ之ヲ止ムルコトモ出来ス又之ニ援助
ヲ供スルコトモ能ハサルモノナリト云ヒ其ノ間ノ関係ヲ漏
セリ同人ハ一ヶ月間位滯在米國ニ赴クヘシト申居リ尚未今
後時局進捗ノ消息ハ自身若クハ腹心ノ者ヲ以テ時々申通ス
ヘキ旨ヲ約シ可成真相ヲ日本ニ伝ヘラレ度キ旨希望ヲ繰返
シ今回雲南ノ事件ニ付テハ将来大二期スル處アルモノノ如
ク要スルニ同人訪問ノ主旨ハ我邦ノ同情ヲ求ムルニアリト
認メラレタリ右御参考迄ニ

二九六 十二月三十一日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南ノ反袁運動力他省ニ波及スル模様無シト
思料スル旨仏國公使館一等書記官談話ノ件

第七五二号
十二月三十日出淵ヲシテ仏國公使館一等書記官ヲ往訪雲南
ノ状況ヲ尋ネシメタル処二十六日以来在雲南領事ヨリ何等
電報無之或ハ電信ニ故障アルヤモ計リ難キモ先ツ雲南各地
共一般ニ静穏ナリト認メラル尚仏國公使館ノ入手セル諸般
ノ情報ヲ綜合シテ自分一己ノ観察ヲ下セハ蔡鍔等ハ革命党
有力者トノ間ニ十分ノ聯絡ナキモノノ如ク且今日ノ處單ニ
中央政府トノ関係ヲ断絶シタルノミニテ積極的ニ独立機關
ヲ設ケントスル模様モナキニ付彼等ノ反対運動容易ニ他省
ニ波及スルカ如キコトナカルヘシト思料スル旨ヲ内話シ次
テ出淵ヨリ仏領トノ関係ニ付質問シタルニ仏國ハ本年締結
セル国境秩序維持協定ニ拠リ仏領ニ於ケル支那革命党員ノ
行動ニ対シ嚴重取締ヲ為ス義務アリ又一八八六年仏支通商
協定第十五条ニ拠リ武器軍需品ノ輸入ヲ禁止スル義務アリ
ト答ヘタル趣ナリ將又同日往訪セル露國一等書記官ハ格別
ノ情報モ有シ居ラス極メテ樂觀的口吻ヲ洩ラシタル趣ナリ
何等御参考迄

香港ニ於ケル革命党ノ廣東省動乱計画ニ關ス
第八三号
当地革命党ハ十二月二十七日秘密会ヲ開キ二十日以内ニ廣
東ニ於テ六隊ニ別レ將軍府諸官署ヲ爆發スルコトヲ議決シ
陳炯明ノ弟モ亦其ノ主謀者ノ一人タリトハ同夜列席者ノ一
人ガ内報セル所ナルガ同人ノ説ニ拠レハ 燕塘、仏山、
清袁ニ在ル砲隊ノ齋軍ハ既ニ買収シアリト右ハ勿論其ノ全
部ヲ信用シ難キ節アルモ兎ニ角近來廣東兵士ノ動搖ニ伴ヒ
前記革命党連ノ計画ハ必シモ樂觀ヲ許サスト認ム
廣東總領事ヘ郵報セリ

二九八 十二月三十一日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南、四川ノ状況ニ關シ在中国英國公使ガ出
先總領事ヨリ接受ノ電報ニ付報告ノ件

別電 同日在中国日置公使堯石井外務大臣宛電報第七
五七号
雲南、四川ニ關スル在雲南及在成都英國總領事
電報写

第七五六号

二九七 十二月三十一日 在香港今井總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

一 袁世凱帝制計画ニ關スル件 附 二九七 二九八

一 袁世凱帝制計画ニ閔スル件 附 二九九 三〇〇

二六〇

報ヲ求メタルニ別電第七五七号ニ通ノ電報写ヲ手交シ雲南
總領事發電報中「貴方報道」トアルハ同公使ヨリ予テ転電
シ置キタル廣東梧州成都重慶駐在英國領事發ノ諸電ヲ唐繼
堯ニ示シ差支ナキ旨同總領事ニ訓令シタルニ付右諸電報ヲ
指スモノナリト説明セリ蓋シ右ノ主旨ハ唐ヲシテ他省ニ於
テハ其ノ挙ニ呼応スルモノナキ状勢ヲ知ラシメ反対運動ヲ
断念セシメントノ目的ニ出テタルモノニアラスヤト察セラ
ル

(別電)

十二月三十一日在中国日置公使發石井外務大臣宛電報

雲南、四川ニ閔スル在雲南及在成都英國總領事電報
第七五七号 別電

(十二月二十九日雲南總領事發) 本日唐繼堯ト會見セルニ
唐ハ貴方報道ノ確実ナルコトハ認メタルモ兎ニ角反対運動
ヲ繼續スヘシト語リ且ツ貴州省ハ近ク獨立ヲ宣言スヘシト
期待シ居レリ唐一派ハ帝政其物ヨリモ寧ロ袁世凱父子ニ對
シ反対シ居レリ

(十二月三十日成都總領事發) 目下當地ハ靜穩ナリ巡按使
及其他ノ高官ハ大總統ニ忠實ニシテ四川ニ駐屯スル北軍ヲ

絶ノ件
第七五九号

十二月三十一日仏國公使ニ面会セルニ雲南方面ヨリハ其後
何等電報ナシト語リタル上漁越鉄道ニ依ル官兵輸送ノ件ニ
付テハ(往電第七三七号) 一実業家來話ノ後更メテ外交部
ヨリ部員ヲ遣ハシ公然申込ミアリタルモ支那政府ニ該鉄道
ノ使用ヲ許ス時ハ革命党ニ鉄道破壊ノ口実ヲ与フルコトト
ナルベシトノ理由ノ下ニ断然拒絶シ早速本国政府ニ報告シ
タル處其措置ヲ承認シ來タリタル旨ヲ内話シ尚右ノ如ク即
座ニ拒絶シタルニ拘ラス一二ノ支那新聞ハ仏國カ該鉄道ノ
使用ヲ承諾シタリトノ記事ヲ掲ケタルニ付直チニ外交部ニ
向ヒテ其不都合ヲ指摘シ万一革命党ニ於テ斯カル新聞記事
ニ迷ハサレ鉄道ヲ破壊スルカ如キ事アラハ支那政府其責ニ
任セサルヘカラサル事ヲ警告シ置キタル旨附言セリ次イテ
同公使ハ支那政府ニ於テ今回唐繼堯任可澄等ノ職ヲ免シ新
タニ後任者ヲ任名シタル處辭令伝達ニ苦ミ仏國領事ヲ經テ
伝達方申出タルモ之ヲ撓付ケタリト語レリ(英國公使モ本
使ニ対シ同様ノ依頼ニ接シタルモ断ハリタル旨ヲ内話セ
リ)

紙ニ漏レザル様留意方稟申ノ件

第七五八号

雲南事件ニ閔シ英仏公使及其他ノ向ト接觸ヲ保チ諸般ノ情
報ヲ得居ル次第ハ屢次ノ電報ニ依リ御承知ノ通ナル處万
其消息新聞紙等ニ漏ルル時ハ先方ニ於テ自然情報供給ヲ差
控ユルニ至ルヘクト存セラルニ付万々御如才ナキ義トハ
確信スルモ其辺特ニ御留意アラン事ヲ切望ス為念

三〇〇 十二月三十一日

(在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛)(電報)

滇越鉄道ニ依リ中国官兵ヲ雲南ニ輸送シタキ
旨外交部ヨリ仏國公使ニ申入レ同公使之ヲ拒

以テ信賴シ得ヘキモノト看做シ居レリ四川軍ノ士官中若干
ハ雲南革命派ト聯絡アリト疑ハレツツアリ其首領ハ瀘州駐
屯ノ第三師團長ナルカ同地ニハ若干ノ北軍モ駐屯ス更ニ二
箇旅團ノ兵湖北ヨリ四川ニ向ヒツツアリ成都ニ戒嚴令施行
ノ儀目下議ニ上リツツアリ

二九九 十二月三十一日 在中国日置公使
石井外務大臣宛(電報)

雲南事件情報英仏公使等ヨリ入手ノ事情新聞

(別電)

十二月三十一日石井外務大臣宛電報

雲南、四川ニ閔スル在雲南及在成都英國總領事電報
第七五七号 別電

(十二月二十九日雲南總領事發) 本日唐繼堯ト會見セルニ
唐ハ貴方報道ノ確実ナルコトハ認メタルモ兎ニ角反対運動
ヲ繼續スヘシト語リ且ツ貴州省ハ近ク獨立ヲ宣言スヘシト
期待シ居レリ唐一派ハ帝政其物ヨリモ寧ロ袁世凱父子ニ對
シ反対シ居レリ

(十二月三十日成都總領事發) 目下當地ハ靜穩ナリ巡按使
及其他ノ高官ハ大總統ニ忠實ニシテ四川ニ駐屯スル北軍ヲ

三〇一 十二月三十一日 在漢口瀕川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

北洋第七師團ノ兵陸續來著ノ件

第一四四号

往電第一四〇号ヲ以テ報告セシ北洋第七師團ノ兵ハ其後京
漢鉄道ニテ陸續南下シ目下第二十六、二十七、二十八ノ三
個聯隊ト砲兵一個大隊輜重兵一個中隊ハ當地江岸停車場附
近ニ露營シ居レリ該兵ヲ宜昌ニ輸送方ニ閔シテハ先日来日
清汽船トモ交渉中ナリシ處右ニ閔シテハ尚命令ヲ俟ツ必要
アルニ付一月二日出帆ノ大元丸ニハ到底間ニ合ハストテ同
日先方ヨリ断り来リタル由ナリ尚曩ニ報告ニ及ヒタル江西
省ヨリ來リシ第六師團ノ二個大隊ハ既ニ岳州ニ向ケ出發シ
タリ

北京へ転電ス

三〇二 十二月三十一日 在漢口瀕川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

革命党ノ反袁画策ノ状況ニ閔スル黨員吳榮興

ノ内話報告ノ件

第一四五号

十二月三十一日革命党員吳榮興(本名播ト云ヒ柏文蔚ノ部

下ニ属ス)ノ小松書記生ニ内話セシ要領左ノ如シ
從来革命党ハ湖北ニ於テハ單ニ情報通信ノミニ力ヲ致シ居
リシモ上海騒動前後ヨリ当地軍隊部内ニ運動ヲ開始スルニ
至レリ湖北ニ於ケル軍隊ハ武昌漢陽ニ在ルモノハ北軍ノミ
ニシテ面識アルモノナキニ付之ヲ勧誘スルニ極メテ困難ヲ
感シタルモ石星川ノ率ユル湖北第一師、黎天才ノ率ユル第
十一師内ニ現ニ四分ノ一位ノ内応者アリ

雲南事變ニ閻シテハ蔡鍔ノ未タ雲南ニ入ラサル以前ニ於テ
同人ト唐繼堯トノ間ニ默契アリタルモノナリ又最近ノ報告
ニ依レハ広西ノ陸榮廷モ亦不日反袁ノ旗ヲ挙クル筈ナリ
長江筋ニ於テ態度曖昧ナルハ馮國璋ニシテ革命党側ノ申入
ハ必ズシモ絶対的ニ拒絶シ居ラサルモ去リトテ未タ十分信
頗スヘキニアラス但シ參謀總長ニハ到底就任セサルモノト

観測セラル南京軍隊中ニハ多少内応者アル見込ナリ張勲ハ
全然袁派ニシテ如何ニ運動スルモ望ナキモノノ如シ
湖南湯將軍ノ立場ハ世上伝説ノ如ク地方人民トモ悪ク又一
方袁一派トモ反目スルノ有様ナレハ此際勧誘運動ヲ開始ス
ル意向ニシテ本日当地同志間ヨリ更ニ状勢視察員ヲ派遣ス
ルコトニ決セリ

四川ニ在リテハ陳將軍自身ハ袁一派ナルモ其參謀部内及軍
隊中ニハ多少望アルモノアリ是亦多少形勢觀望中ナリ
要スルニ革命党連中ハ雲南事變ノ進捗ト共ニ必ス之ヲ大事
化セントスル決心アリテ今回ハ必ス物ニナルヘシトノ信念
ヲ抱キ居レリ云々

在支公使ヘ転電セリ

事項II 中國革命党關係者ノ動靜 〔閻スル件

III.OII 一月四日 在本邦仏國大使ニリ

広州湾ニ於テ仏國官憲ニ逮捕サレタル中國革
命党員ノ為在日孫逸仙モ印度支那總督宛發
電〔閻スル件

NOTE pour Monsieur MATSUI, Vice-Ministre des
Affaires Etrangères
Soi-disant intervention de SUN-YAT-SEN,
résidant au Japon, en faveur de révolution-
naires Chinois arrêtées par les autorités
françaises à Kouang-Che-Wan.

Plusieurs Chinois suspects d'intrigues révolution-
naires ayant été arrêtées à Kouang-Che-Wan, le Gou-
verneur Général de l'Indochine a reçu, fin Novembre
et le 5 Décembre derniers, 2 télégrammes de Tokyo,
signés "Sun-Yat-Sen", recommandant ces individus à
la surveillance de la Justice.

Le Gouverneur Général a aussitôt demandé à
l'Ambassade de vouloir bien faire contrôler, si pos-
sible, si Sun-Yat-Sen était bien l'auteur des 2 télé-

grammes précitées et de tâcher, dans ce cas, de savoir
comment il justifiait son intervention en faveur des
inculpés.

L'Ambassade a alors fait une démarche officieuse
au Ministère de l'Intérieur, qui a cru devoir, à son
tour, lui indiquer Mr. Yoshida, du Gwai-Mu-Sho,
comme étant susceptible de faire donner à l'affaire
la suite désirée. Mais celui-ci n'a pu, finalement, que
donner connaissance à l'Ambassade de l'adresse de
Sun-Yat-Sen à Tokyo.

Tokyo, le 4 Janvier 1915.
L'Ambassadeur de France'

(右訳文)

広州湾ニ於テ仏國官憲ニ逮捕セラントタル支那革命
党員ノ為ニ在日孫逸仙ノナセル所謂交渉 〔閻スル
件

革命的陰謀ノ嫌疑アル支那人數名広州湾ニ於テ逮捕セラ
タル處右支那人ヲ裁判權ノ恩惠ニ蒙サセル孫逸仙署名ノ東